現地編輯 THE NORTH CHINA

11

# 內蒙古展望（その一）

夢から現實へ、謎の國蒙古が新大陸建設の活舞臺に躍り出したのは、一昨年の秋のことである。察南、晉北、蒙古三自治政府より成る、蒙疆聯合委員會は、成紀七三四年卽ち昭和十四年九月一日、三位一體の新政權蒙古聯合自治政府として、その政治的基礎を鞏固に

GLIMPSE OF MENG-CHIANG (INNER MONGOLIA) 1

した。親日防共、民族向上、財政確立、産業開發、民族協和などのスローガンの下に、やがて四色七條の旗風が、蒙古平原を隈なく風靡する日も遠いことではあるまい

廣袤六十萬平方キロ、人口漢民六百六十萬、蒙民三十萬、回民十萬を抱擁する帶古地帶は、ほゞ一千米以上の高原を成してゐるため、春秋の候が殆ど無く一躍夏から多に移るやうである。のみならず百度を超える盛夏でも、夜分は零下五度に下ることがあり、多は文字通りに朔風凛烈零下四十度内外に達することも尠くない。從つて不毛の土地が多く、阿片の外には農產物は實に僅少である

併し、鐵、石炭などの無限の地下資源や九百萬を超ゆる家畜禽類、更に年產八千萬斤の土湖鹽類などは、明日の開發を待つてゐる。交通に就いては、北京と包頭を結ぶ京包鐵道と自動車網があり、郵便、電信、電話は政府管理下の郵電總局が設けられ、着々とこれの充實が圖られてゐる。尙こゝに忘れてならないことは黃河を利用する蒙古水運のあることである。もとよりそれは解氷期約七ケ月間に限られてゐるが、それでもその貨物取扱高は民船約八百隻を以て、溯航約八百萬斤、下航約八百萬斤、このほかに皮筏子約三百、約一千萬斤、計二千六百萬斤に達してゐる

寺から寺へ旅する老ラマ

羊群かへる（多倫）

盛裝せる既婚婦人（ウランチヤツプ盟）

## 內蒙古展望（その二）

# 風俗

蒙古人の習俗で特に眼立つてゐるのは、漢民族化したものを除き、絕對に農耕をやらないことである。それは鐵で大地の中の蚯蚓を切斷すれば、その罪九族に及ぶといふ喇嘛教の教義に基いたもので、洵に大人氣ない話である。

また家畜が全部の財產であるため、その大部分が水草を追うて曠野を漂泊する遊牧の民である。隨つてその住居は移動式の包（パオ）である。包は柳や白樺で骨組を作り、大きさは直徑四、五米、高さ三、四米で圓錐形の屋根や周圍の塀は夏は葭簀張り、多は羊毛氈子が用ゐられてゐる。內部は疊代りにこれまた羊毛氈子や牛馬皮が敷かれ、中央には炊事用の鐵製五德（トロガ）を据え、燃料は牛馬の乾燥糞（アラガル）や羊の乾燥糞（ホロゴル）を使用して羊肉や酒茶を煮沸してゐる。

佛壇や成吉思汗、或は德王の像を祀つた眞正面が正座で、一般客人に對する接待席であり、この家の家長の上座敷でもある。その右が女子または子供達の座席で、左は男子またはこの家の若夫婦の座席となつてゐる。服裝は支那服の大褂兒（ターコワル）に似たものが用ゐられてをるが、男子と未婚婦人とは必ず帶を結ぶことになつてゐる。またこゝでは喇嘛僧以外の男子は盡く辮髮して、未婚婦人は一本の辮髮に頭飾り少く、既婚婦人は前髮を左右に分けて二つに辮髮して日本の褊襠（うちかけ）に似た小袖を着る。衣物は縞柄よりも色合が主で紅、青、紫紺などの濃厚なる原色が歡迎される。嚴寒時に於ける履物は羊毛製の長靴（ゝカートンカ）が使用される。家族制度、特に嚴格な家長中心主義で、結婚は媒介結婚、男子十七歲女子十六歲位の早婚である。結納は大抵馬二、三頭、羊十數頭、銀五、六十元及びハタツク（帛）などで、婚禮日には花嫁はヴェールで顏を覆ひ晴衣美しく馬上に跨がり、幾日がかりでも曠野を渡つて花婿の家に乘込んで行く。生れた子供が男子の場合は、その七歲の時喇嘛僧を呼んで辮髮初めの式を執行する。吾國の昔の元服の式にも當るものである。それにまたこの國では葬儀が實に獵奇的で、風葬といつて屍體をそのまゝ原野に遺棄する蠻風が殘つてゐる

毛氈に模様を縫ふ（西蘇尼特）

總王府の役人たち

子[illegible]に乗つて——ブリヤート人の一家

西ウヂムチンの婦人、

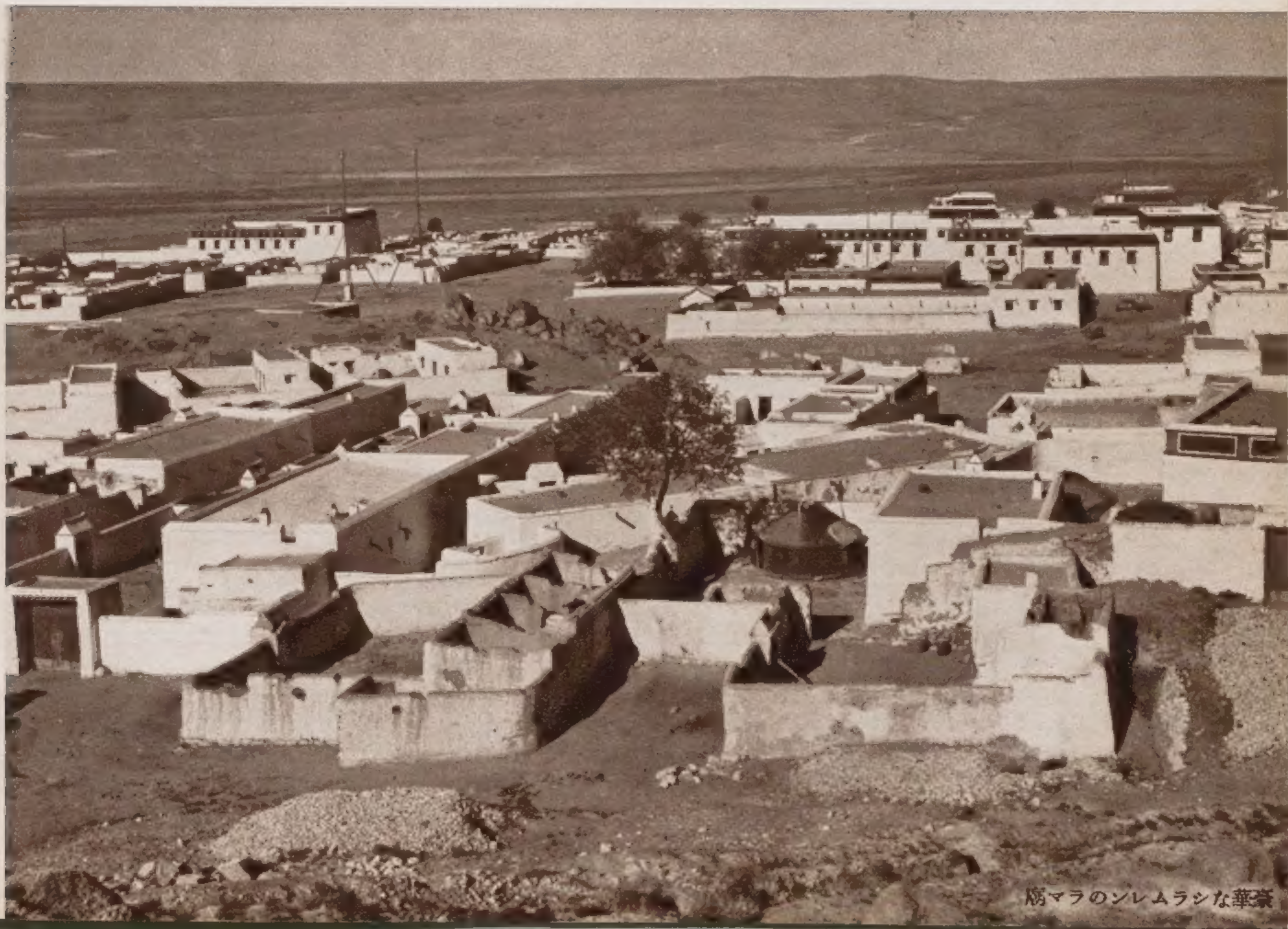
ダブスノールのラマ——道で會ふと互に嗅煙草を交換しあふ

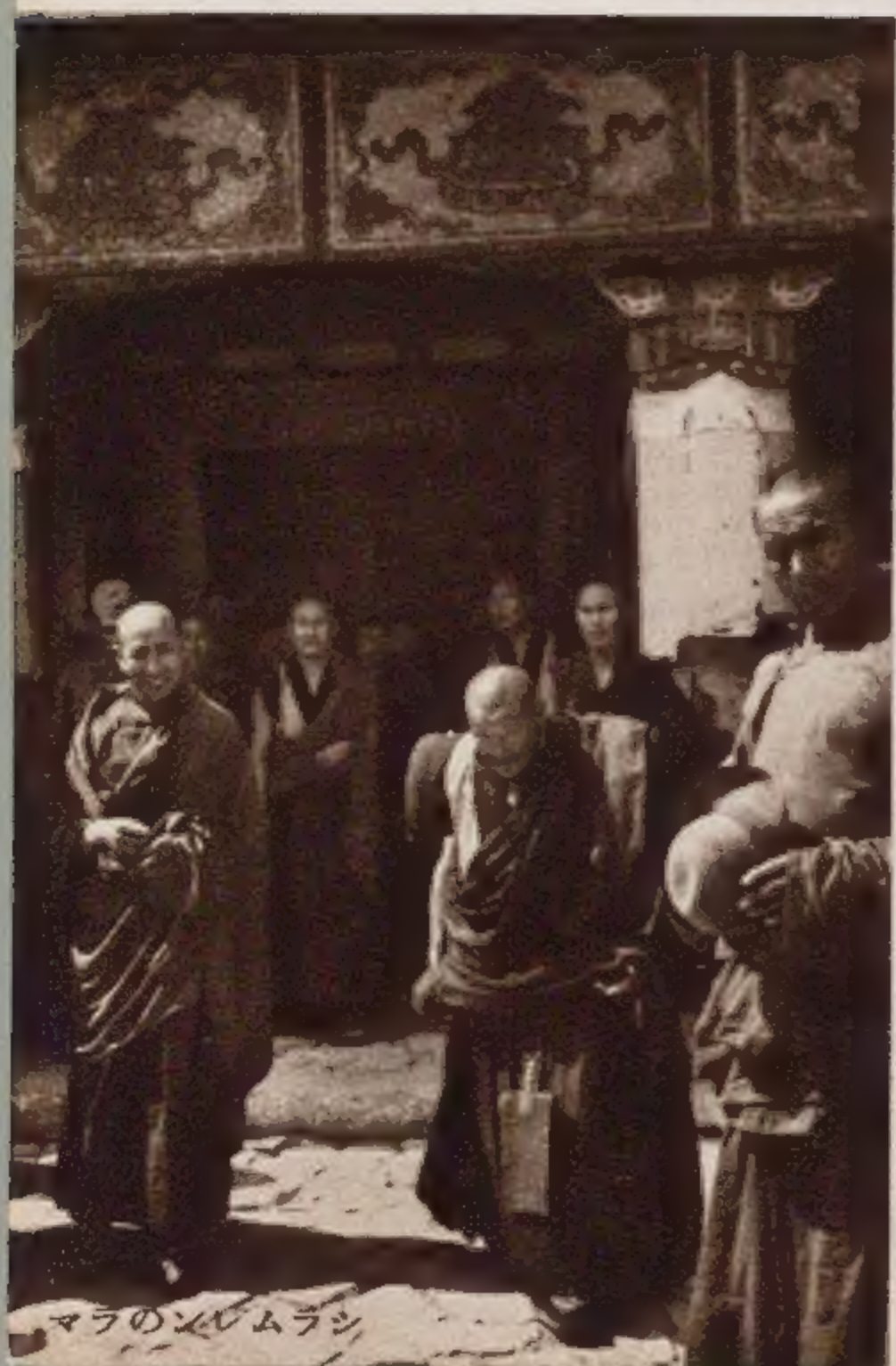
ダブスノール附近のオボ

東蘇尼特ラマ廟の白塔

# 内蒙古展望（その三）宗　教

豪華なシラムレンのラマ廟

子供ながら活佛である——シーススム

およそ規模宏大な喇嘛廟殿の建築ほど、索漠たる蒙古の大原野に不釣合なものはない。それだけ、喇嘛教はこの不毛の土地になくてはならない生命の糧である。喇嘛はそれだけ偉大な勢力を持つてゐる。それは單なる宗教ではなく、恰もローマに於ける法王廳の如く絶對的な支配力さへ持つてゐる。從つて蒙古の男達は喇嘛僧になることを最大の名譽と考へ、且また人間としての當然の義務と信じてゐる。蒙古民族三十萬のうち十五萬を男子とみて、その過半數は喇嘛だといはれてゐる。またこれにふさはしく喇嘛廟の數も、實に夥しく一旗內二十個所とみて內蒙古五十旗には約一千個所在ることになる。しかも小廟で二、三十人、大廟では七、八百人からの喇嘛僧が念佛三昧のうちに徒食してゐる。喇嘛はもと佛教に發源する佛教の一種で、紅教と黃教との二種があり、これが蒙古に入つてきたのは元の忽必烈時代、今日蒙古に布延されてゐるのは黃教である

たゞ單に喇嘛といふ言葉は「無上」の意で、俗世間に於ける一切の煩惱を解脫して、無上の法悅境に到達するを以てその教理としてゐる。喇嘛僧の階級はいはゆる活佛を最上席として第八位まであり、その戒律は、一、妻帶すべからず。二、喫煙すべからず。三、飲酒すべからず。四、妄に女の事を語るべからず。となつてゐる。併しこの戒律はあまり嚴重に實行されてゐないやうである。祭事としては喇嘛廟祭やオボ祭（道祖神祭）があり、いづれも實に殷賑を極める

シラムレンのラマ

ラマ廟の壁畫——シラムレン

ブリヤートの強弓

角力、競馬、競弓は蒙古に於ける三大國技である。角力は大體吾國のそれに似てゐるが、土俵のないのと腰に力がなく、たゞ腕と脚とを中心として、且また勝負の前後に於て掛聲勇しく踊り廻ることが特異な一例で、主として喇嘛廟祭やオボ祭當日行はれてゐる

競馬は牧畜の國だけに仲々盛である。まづ或る部落で競馬をやらうとすれば、その部落の長老先輩が協議を開き、愼重に騎手や馬を選定する。競馬場内に於ける出發、決勝點その他の一切は幹事に一任されてある。騎手は年少者が多く八、九歳から十四、五歳頃までゝある。馬はいづれも裸馬ばかりで鞍は使用されず、僅かに毛氈が布かれてゐる。併しその尾や耳と耳との中間などを赤い布片などで飾り立てることもある。コースは殆ど一直線ばかりで、圓形コースは皆無といつてよい。一競走十五里か二十里位で、優勝者には羊や綢緞、氈などの賞品がそれぞれ授與される

競弓は昔ほど盛ではないが、精悍な蒙古人になくてはならない娯樂の一である。弓は木製で中央を籐で卷き、弦は牛馬などの筋を以て作り、矢身は木または竹製で矢羽根は鳥の羽根で作る。鏃は大抵角が主で時に鐵石が使用されてゐる。的は圓形で三重丸、五重丸から成り眞中を赤黑で染めてある。このほかにソ聯外蒙から逃げてきたブリヤート族の弓がある。それは土着のハルハ族のそれと違ひ、鏃がまるく的は毬に似た球で、命中するとその球が近くに掘つてある小溝の中に轉げこむ仕掛けになつてゐる

大同炭礦

# 大同炭礦

大同炭田は京包沿線大同の西南、自動車で約一時間のところ。大同平原の西線を縱走する國泉山脈より以西の高原地帶を占め大同、懷仁、左雲、右玉、平魯及び朔の諸縣に跨り、幅は十七粁縱は百十粁、面積千八百七十平方粁にわたる大炭田である。厚さ一・二米乃至五・四米の石炭が七層にわたつて東北から西南へ向つて[illegible]長く走つてゐる炭田の地底はカンブリア紀の頁岩、石灰岩等からなり、此の上層に下部含炭層である二疊石炭紀層の礫岩、頁岩、砂岩があり、上部含炭層であるジュラ紀の頁岩、礫岩、砂岩等が其の上部に互層をなしてゐる。この地質調査は今から二十一年前の大正七年、[illegible]時産業調査局技師門倉三能氏が、支那人に變裝、ドロンより此の地に入つて人目を避けて調査したものだ。これは龍烟鐵鑛を支那農鑛部顧問アンダーソン博士が、國民政府の保護の下に調査したのとは全くその條件に異にしてゐたから當時の門倉技師の苦心は我々の想像も及ばぬものがあつたらう

大同炭鑛の埋藏量は、礦床が餘りに廣範圍で未だ全體に亙つて精査されてないため正確な量は推定し難いが、門倉技師によると、百二十億噸とされてゐた。ところが蒙古聯合政府の產業部は本年五月再調査の結果推定埋藏量四百億噸と發表した[illegible]而も某權威の說によると、新炭層の下には尙黃河畔に及ぶ大炭層があると云はれ、これが確認されると大同炭の埋藏量は正に無盡藏といふことになる

雄大な石炭の露頭

間合の奉仕

# 大同炭礦 2

炭質は概ね高度瀝青炭で、灰分少く、發熱量高く（七千四百カロリー）火附き火持ち共に良好で工業用炭としても家庭用炭としても極めて優良である。下部の石炭紀に屬する石炭は粘結性を有して骸炭製造に適する。且この炭鑛は、石炭坑につきものゝガス發生がなく、湧水も殆どなく、岩板が固くて杭木を建てる必要がないので坑内は廣々として居り、多は坑内で保溫の焚火が出來る、嘘のやうな炭坑である

同炭田の石炭は往昔から到る處に露出してゐたから、土民が自由に採掘してゐたが、民國七、八年頃から山西省一帶の大小炭鑛業者が旺んに鑛區獲得の運動を始め稼行を試みた。しかしこれも販賣の無統制と亂掘の結果採算割れとなり、その上內亂相次いで開發が進まなかつた。約十年前山西省政府の手で晉北鑛務局が設立され、年產最高二十六萬五千噸を記錄するに至つた。而して今事變勃發し、昭和十二年十月我が軍が之を接收し滿鐵派遣員によつて採炭作業が繼續せられ、現在永定莊坑、煤峪口坑、保晉坑の三坑から掘つてゐる。接收後昭和十三年末まで約一年三ケ月に八十七萬餘噸を出炭した。從來の出炭に比して三倍だが埋藏量四百億に比すれば蚊の淚程もない

かねて設立を要望されてゐた大同炭田開發の新會社も愈々近く蒙疆特殊法人として成立すると傳へられてゐる

問題は無盡藏の石炭を如何に多く如何に安く運ぶかである。

泥そこの炭石

HARVEST FRUITS

# 味覺

曠野に稔る秋程豐かなものはあるまい。それは日本の段々畑の比ではなく、赤い夕陽も大きく見えるやうなものだ。人間の營みと自然の壯大な融合!!手にとれた翡翠のやうな葡萄の美しさよ、仲秋節前後の北京は充實した天下の秋を蒐めて都人の味覺をそそる。支那も黄土ばかりではない。支那ならではの大きさ美しさ、收穫もあるのである
例へば京包線における宣化の葡萄、同じく南口の柿、京山線の豐臺、天津に集散される桃と栗、昌黎の梨、又山東は芝罘の梨、其の他隨處に產する棗等々

街頭に踊り出した果物

…の果物賣り—

宣化の葡萄園

# 支那の煉瓦

A BRICK-FIELD

北京の昨今は人が殖える、家が建つ、道路や橋が改築される等々めざましい活況を呈してゐる。いきほひ重要な建築資材として「黑煉瓦」が大きな需要を呼んでゐる。北支や蒙疆では日本で見るやうな赤煉瓦は少く、煉瓦と言へばまづ黑いものとなつてゐる。これは製法の關係で黑い方が堅牢だからだ。空の碧、樹の綠、姑娘の清楚な淺黃の服などの背景として城壁や建物の落ちついた黑ねずみ色は、いかにも古都らしい色どりである。こゝ一、二年來のすばらしい建築景氣に近郷近在の磚窰(煉瓦窰)は文字通り晝夜兼行、生產擴充に大童である。こんな景氣は國府の首都南遷以來十年ぶりだと言つてゐる一つの窯で十萬個づつ燒けるが、「乾三天、燒十天」と言つて三日間乾し、十日間燒くので一つの窯から十三日ごとに十萬個宛でき上る。北京中に窯は二十ほどある。原料が無盡藏で工賃の廉いのが强味で、昨今の製品は千枚で三十圓內外

磚窰では黑煉瓦のほか、磚瓦と言つて大きさ一尺四方で厚さ一寸ほどの黑い瓦を燒いてゐる。これは土間や廊下に使ふもので、これを敷けば下駄や靴で步き廻つても音がせず、頭に響かないのが特長である。紫禁城や萬壽山など皇宮、離宮にはこれの上等のものが使つてある。支那家屋建築には無くてはならないもの。千枚百五十圓程である北京だけでなく北支、蒙疆一帶を旅行すると、汽車の窓からあちこちに煉瓦窯の煙が見える。活氣ある現地建設風景の一つである

原料粘土の採掘

窯の全景——回に十萬個焼ける

粘土の型入れ

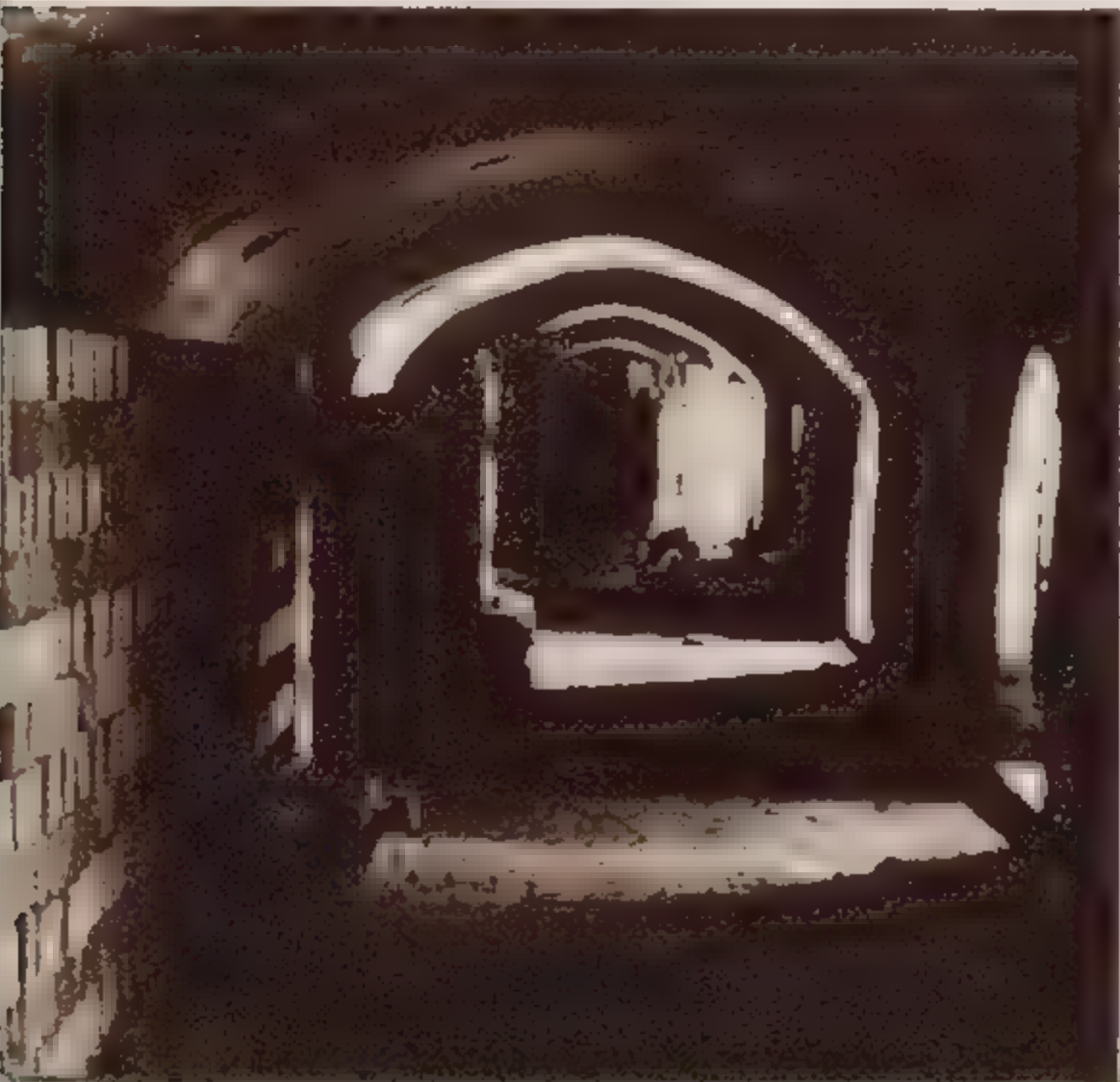
# 斜陽

金鰲玉蝀橋——北京北海と中海境界の石橋

北京安定門城外

EVENING GLOW

# 扶輪學校

(その一)

HURIN GAKKO,
THE SPECIAL SCHOOL BELONGS TO THE NORTH CHINA RAILWAY CO. 2

新民體操を元氣よく

扶輪の輪は車輪。扶輪學校は華北交通會社が北支の沿線各地に巨費を投じて中國人鐵道從事員子弟の爲に經營した學校である

華北交通會社は鐵道と自動車と水運との單なる經營會社ではない。開拓、啓蒙の大きな使命をもつ。その大きな使命に鑑みて舊來の交通の面目を一新しつつ更に子供を教育して次の時代と次の時代の交通とを擔任すべき人を作らうとする。扶輪學校は實にそうした理想と計畫との一つのあらはれである

現在までの開校數は二十三校。本年中に四十一校になる豫定である

初級扶輪學校は滿十歳から十二歳迄の子女を收容して普通國民教育を授け修限年限は四ヶ年。高級扶輪學校は初級終了者中滿十四歳から十六歳までの男子を收容、鐵道業務に關する實務教育を施して修養年限は二ヶ年。

事變以來閉鎖されてゐた各地の扶輪學校が次々と開校されるや、子女の教育に途方に暮れ、手をつかねてゐた父兄達は忽ち定員の何倍といふ有樣で、子を愛する親心には何處も變らぬ風景を各地に點出した

設備の完全、教師の優秀、授業料全免といふ好條件で各地とも模範校となつてゐる

嘗て幼い心に植えつけられた抗日意識も新らしい車輪の響に打ちけされ、いま校舍よりもれるものは日本語の勉強の聲である

高級生の實習

# 扶輪學校

（その二）

手旗信號

日章國旗の下で朝禮

量目の計り方

連結器の實習

鐵道工場の中て機械の掃除

イントの扱ひ方

URIN-GAKKO,
THE SPECIAL SCHOOL BELONGS TO THE NOBTH CHINA BAILWAY CO.

CHINESE BOOKSELLERS

# 支那書店を覗く

東安市場の古書肆

北京の書店といへば、先づ有名な琉璃廠や隆福寺の前通などに軒を並べてゐる謂はゞ「古典的」な一流店を擧げねばなるまい。然し外觀はもとより、店内を覗いてもたゞ古めかしい書名を記した紙箋を下げた帙入の書物が天井まで處せまく積上げてあるばかり、内地の和本屋と同様で何の變哲もない。學者か愛書家かでもない限り立入つて一わたり見るほどの興味すら湧くまい。事實かういふ書店は、主として一定の顧客を相手に商賣をしてゐるので、店舗はなかば書庫の役目を果してゐるに過ぎない

それより寧ろ東安市場の一廓に店を張つてゐる半屋臺式の本屋などの方が、吾々には親しみやすい。店の主は毎日自宅から通つて來て、スタンドの下の戸棚の錠を開けて荷を並べる。漢籍はもとより、洋書、拓本、見切本、書畫、雜誌等々入り混つて渾沌としてゐる。散策がてら、「思はぬ掘出しもの」でもと誰しも一應の好奇心を唆られる。卷煙草の一本賣り、三杯一錢の茶水など、北京の往來に見かけて頷かされるものは少くないが、更に「出租小説」などと立札を揭げた貸本屋兼業の露店がある。一回一錢で、店番の眼つきに氣がねをする必要もなく、自轉車に凭れたり、路傍の石に腰かけたりして、のどかな秋の陽を浴びながら、三國志演義の拾讀みや西遊記の繪本などを樂しんでゐる有様は、正に簡易庶民圖書館とでも云へようか、微笑ましい情景である

借本を見る街の子

# 邯（かん）鄲（たん）

邯鄲の南門城壁

A SITE OF LEGENDARY INTEREST

叢台公園

邯鄲は夢の街である

京漢線を南に順徳から五三キロ、河南省境に近い傳説と歴史との古い街である。舊城は驛から西に約十六町、現在では僅かに人口二千足らずの河北省の一縣城にすぎない。併し四千年の昔、春秋時代の趙の首都たりし處であ

夢見る盧生の木像

る。ついで戰國時代には魏の精兵八萬が、時の趙王とともに秦の王翦軍を粉碎せる古戰場でもある。隨つて附近一帶には叢台、廻車巷、呂仙祠、邯鄲宮、洪波台、酒務泉、三忠祠、學武橋、劍池、雙岡、照眉池などの名所舊跡が多く、どことなく日本の奈良を偲ばせるものさびた街である

なかで最も有名なのは、藺相如の廻車巷の古事と邯鄲の夢枕の傳說である。藺相如の事蹟は、既に吾國の國定教科書にも收錄されてゐるやうに、趙の一舍人に過ぎなかつた相如が、拔群の勳功に依り一躍首相の印綬を帶ぶることになつたので、時の名將軍廉頗は彼の下位に坐することを潔しとせず、折あらば相如を辱めようとするので、逸早くこれを知つた相如は途中廉頗に遭ふと、故意に車を回して彼を避けることにしたのである

ところが相如のこの心事を解しない近侍達は、彼が臆病で廻避するものと誤解してその理由を訊すと、相如は「兩虎鬪へば共に生きず……」と答へた。これを聞いた廉頗は大いに愧ぢ、直ちに辭を低うして相如を訪ね、終に刎頸の交を結ぶことになつたといふ。すなはち今なほ殘る廻車巷が、この物語の一片である

邯鄲の夢枕とは、枕牛記の一節にある傳說で、その昔盧生と呼ぶ男が邯鄲の一旅舍に於て、呂と稱する一仙翁の枕を借りて轉寢してゐると、いつとはなく五十年に亙る榮耀榮華を極めることができた。ところが豈測らんやそれは一場の夢に過ぎず、眼醒めてみれば仙翁が炊いてゐた黃粱の飯は、まだ煮立つてもゐない、正しく黃粱一炊の夢。すなはち後世これを傳へて盧生が夢、邯鄲の夢枕と稱することになつたといふ。而して呂仙翁の呂の字は、これを分解して重ぬれば回敎の回の字となるので、回敎の魅力を宣傳せんがための作り話であるともいはれてゐる。邯鄲の街から少し離れた王化鎭に今なほ夢みる盧生の木像と、その旅舍の跡が殘つてゐる

# 扁担戯

（人形芝居）

圖は舞臺下周圍の幕をまくつてみたところである。前の方に下つてゐるのは小さなドラ、下の方のは道具入れ。眞中の柱は天秤棒である。それに結へた底なしの舞臺に首を突込んで上演する

PUPPET-SHOW IN THE STREET

商賣道具を擔いで胡同から胡同へ

かわいゝお顔をしてゐるではありませんか。この人形さんが踊るのです。

天橋や、夏ならば什刹海の盛り場か思ひもよらぬ胡同などで珍しく人形芝居を見つけ出す。人形芝居の歴史は古く周漢時代に既にあつたらしく、六朝の時分には宮中、殊に後宮妃嬪の慰みに流行つたさうである。それが唐宋の頃は民間に入つて來た。傀儡戯（人形芝居）にも色々あるが北京に今あるのは扁担戯だ。扁担は天秤棒のことで、擔いで歩くからさう云ふ。舞臺を前に道具箱を後にからげまとめて擔いで何處へでも行く。さて上演の時は天秤棒を柱にして、その上に舞臺を結へつけ、そこらの塀か何かに立てかける。さうして底なしの舞臺の下に這入つて周圍の幕を下し、人形を操りながら唄ふのである。その人形がまた良い顔なので見ただけで欲しくなつてしまふ。傀儡戯で有名なのは、福建の泉州である。北京のは南方から來たものらしく藝人は山東人が多いさうである

傀儡戯も昔はかなり大仕掛で、唄ひ手や、囃し方を別にしたのがあつたさうだけれども、此頃は廢れて、扁担戯も北京に澤山は居らぬ。盛り場でなかつたら人通りの少い胡同の道傍で女子供相手に見せる位である。巷を歩いてゐて呼ばれたら院子（中庭）に入つて來て上演する。一幕五錢か十錢もやればよい。脚本はおほかた古事にとつたもの

NEWS-FLASHES FROM NORTH CHINA

# 蒙古聯合自治政府成立

民衆にこたへる德王

## 大きな歴史 小さな歴史

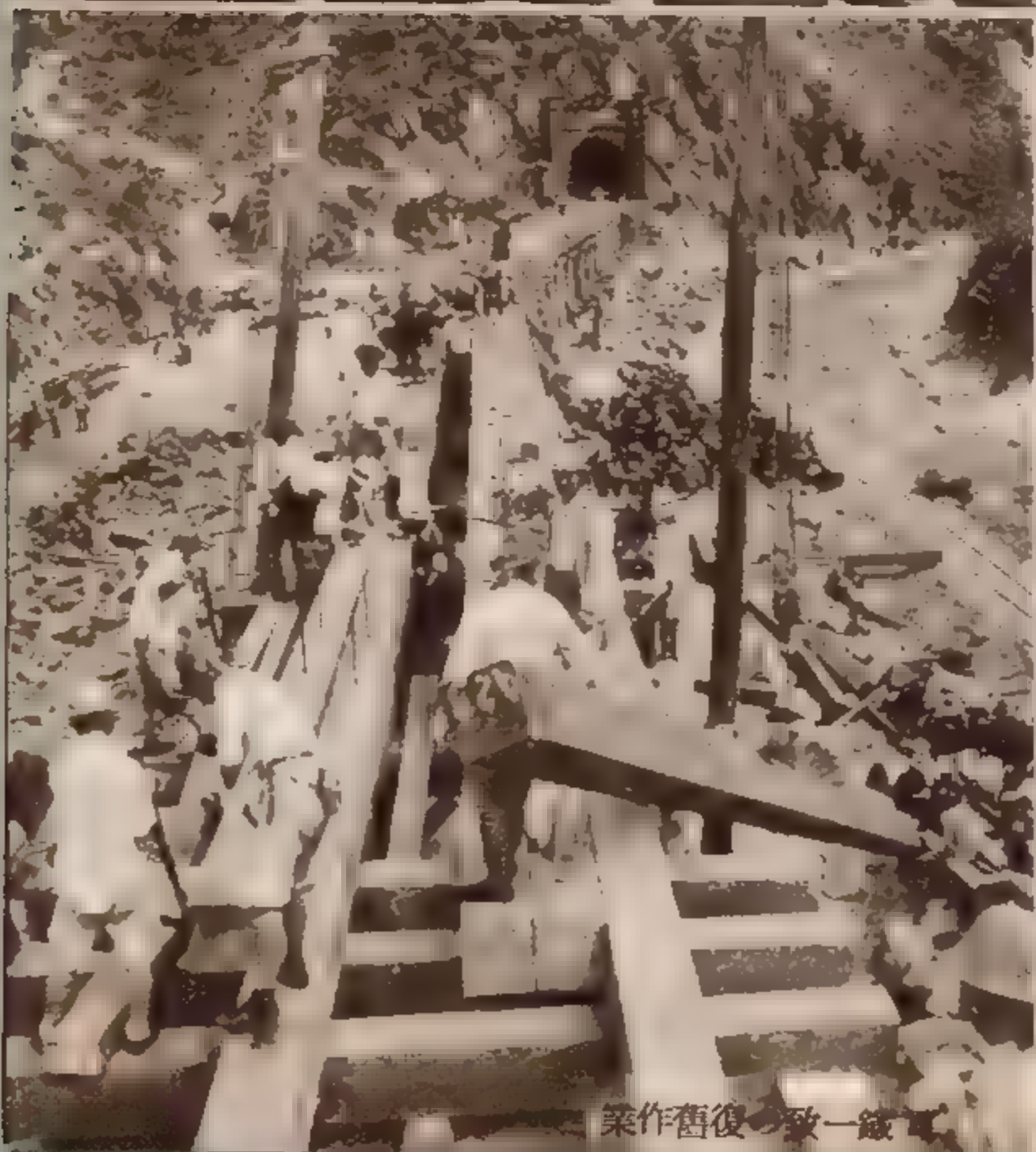
親日防共、民族協和の大旆を掲げて樂土建設に邁進して來た蒙疆聯合委員會、蒙古聯盟自治政府、察南自治政府および晉北自治政府は成紀（成吉思汗紀元）七百三十四年九月一日を期し、分治合作の制度から統一政權へと躍進、こゝに蒙古聯合自治政府は歡呼の裡に誕生した。この日、新政府では成立宣言、施政綱領、組織大綱、政府組織法などを發表、主席に德王、副主席に夏恭、于品卿兩氏が推擧され、首都は張家口と定められた。この世紀の祝典を壽ぎ、七百萬民衆は感謝日本日、民衆祝賀日、民衆興亞日、民衆運動會等の行事に湧きかへり、黄、青、白、赤の四色七條の新政府旗は感激を孕んだ秋空にへんぽんと翻った

# 鐵路復舊

稀有の水禍に見舞はれた北支、蒙疆地方は随處、近來にない慘狀を呈した。京包、京山、京古、津浦、同蒲各線とも一時は列車不通の餘儀なきに至つたが、我が軍鐵は見事この濁流を克服、驚くべき神速さで復舊工事を進め、次次と列車は凱歌を擧げて開通した

復舊成りて京包線開通

軍鐵一致の復舊作業

積上げられた土嚢

# 大きな歴史 小さな歴史 2

**北支派遣軍司令官更迭**　在任十一ヶ月、大陸建設に不朽の武勳をたてた杉山元大將に代つて多田駿中將が北支派遣軍最高指揮官として登場した。九月十八日午後五時、新最高指揮官は日支軍官民多數の出迎へを受けて空路北京西郊飛行場に晴れの着任をした。寫眞は多田中將

ラヂオ體操

**北京の心身動員運動**　興亞の基地、北京の邦人は、九月十七日午前九時二十分、北京東單練兵場に勢揃ひして心身動員大會を催した。小は幼稚園の園兒から邦人各層を網羅、ラヂオ體操に、愛國行進曲の唱和に、大に心身を鍛へた。これが濟んでから北支興亞青年聯盟結成大會が行はれ、鉢卷姿の分列行進に第一線青年の意氣は天に冲した

興亞青年聯盟結成式參加の[illegible]青年隊

小學生兒童も擧つて參加

# 北支蒙疆石炭埋藏量

(單位百萬トン)

北支、蒙疆の石炭埋藏量に就いては今のところ[illegible]であるが、上の圖表は極く一般に唱へられてゐる數字に據つたもので、これによれば、北支、蒙疆は[illegible]千二百三十八億屯の石炭埋藏量が見積、全支の五五・六%、滿洲國の約十二倍に當つてゐる。事變後、日本の技術家によつて科學的調査が行はれつゝあり、大同炭礦の如きは百二十億屯から一躍四百億屯といはれるやうになつた。今後調査の進捗につれて全般的に相當訂正されるであらう。

# 厚生保健に

強力ビタミンB劑

# オリザニン

脚氣の治療及豫防に
乳幼兒の成長障碍に
熱性疾患諸症に
疲勞の豫防及恢復に
食慾不振に
妊娠、産褥、授乳時に

末、錠、液、エキス、注射液各種

(說明書進呈)

東京市日本橋區室町　三共株式會社

# 或る經濟工作

鷹見猛男

私が京漢線の石家莊に着いたのは去年の暮近い頃であつた。私達の任務は此處から東に十三里の晉縣城を中心とする附近三縣の治安維持と產業開發に當ることであつて、私は專ら經濟工作を擔當せよと命ぜられたのである。街を步いて見ると相當大きな建物もあり商店もあるが殆ど全部表戶を閉め切つて、ひつそり[illegible]とした「死の街」さながらの暗い埃つぽい空氣に鎖されてゐた。何かやらうにも、元來私は一介の兵隊であるし殊に經濟には全然門外漢なので、實のところ何から手をつけるべきか全く途方に暮れたのである。持合せの知識といへば、支那といふ國は、農業國で大抵何處でも農產物は豐富である。話に聞けばどうやらこの邊は棉花の中心地らしい、といふ程度の洵に[illegible]りないものであつた。これで經濟工作と名付けるものをやらうといふのだから凡そ滑稽且つ亂暴な次第である。

討伐から歸つた兵隊の話によると、この附近一帶には莫大な棉花が隱匿されてあるといふ。兎も角農民が疲弊してゐるのは事實だから、先づこの棉花を買取つてやることが第一だらう。と肚を決め部隊から十名の同志を集めて「經濟部」を編成し、石家莊の貨物廠で一週間棉花に關する速成の講習を受けた。この時石家莊に七人の日本棉花商が來てゐたので保證金を取つて彼等を指定商人に決め、晉縣に歸ると直ぐ縣公署から『棉花を買ふから持つて來い』と佈告させたのである。買付値段は、事變前この邊の相場だつたといふ百斤三十二圓。私達の擔當地區三縣は人口八十萬、土地肥沃にして棉作に適し、年產二十九萬ピクル、河北全省三百萬ピクルの一割を產出す、と民國廿五年の記錄にある。所謂西河棉の本場である。戰爭直後とはいへ相當の出廻がある筈だ、と私かに胸躍らせつゝ待受けてゐたのであつた。

ところが佈告後數日を經ても持つて來るのは日に一俵か二俵。いろ〳〵調べてみると私達の遣方が杜撰至極で欠陷だらけであることを知つた。その第一は、品物を取つて金は拂はぬのではないかといふ農民の不安、次に値段が廉過ぎる、さらに金は貰つても買ふべき食料や雜貨があるまいといふ懸念、途中第八路軍が待構へてゐて脅迫し稅金を强收する等々。

そこで私達は部隊本部に後援を求め各方面に極力奔走して智慧を借り協力を賴んだのである。先づ買値を一擧十圓吊上げ、次に有力紡績業者や棉花商を勸誘して資本六十萬圓の棉花買付組合を結成することに成功した。また華北汽車公司（現在の華北交通會社自動車部）から多數の貨物自動車を廻して貰つた。さらに日本の購買組合に似た仕組で合作社をつくつた。奧地の農民は物資欠乏、殊に食料不足に惱んでゐる。棉花は持つてゐても之は金に替へねば役に立たない。それで、棉花を聯銀券で買取り、その代りに合作社を通

## 內容

して食料その他日用品を賣つてやらうといふ思付きである。これは巧く當つた。臨時政府が何であるかも知らず聯銀券に疑念を持つてゐた奥地の者も之で良い品物が買へるとあれば喜んで受取つてゆく。途中にはまだ第八路軍が出沒して脅迫したり税金を徴收したりするが、棉花は相當の値で賣れるし必要品は廉く買へる、といふので其後は持込日増しに活潑になり、今年の一月から六月迄に晉縣に馬車で集つた棉花は五萬餘梱、年額約六百萬圓程度の出廻りを呼び併せて聯銀券の奥地流通を促進することになつた。治安が良くならねば奥地の物資は絶對出廻らぬといふ人もあるが、遣方一つではどうにでもなるし、農民の心を摑むことも困難でないと確信を得た次第である。

棉花の出廻が旺盛になつたゝめ買付組合や合作社の手數料、それに縣公署の收入も殖え資金が潤澤になつたのでさらに種々手を伸ばしてみた。先づ最初に道路を補修して自動車運搬に備へた。次には晉縣城内に農事試驗場をつくり五町歩を經營して棉花の品種改良野菜や果實の栽培、養鷄、養豚などで農民に實物教育することを思立つた。大體支那人、殊に農民は非常に因襲的なので、口先でいくら宣傳しても却々習慣を變へようとしない。鼻先に實物を突つけるのが手ツ取早いと知つたからであつた。それで田舎の者を努めて縣城に連れてきて賑やかな町の樣子を見せ、試驗場の立派な作物や家畜を見せることにした。彼等の口を通して村の隅々まで宣傳させようと考へたのである。次には趣向をかへて、この地區の棉商十四名を選んで日本視察に出した。一行は大阪で鐘紡の淀川工場を見學し更に東京や八幡にも廻つた筈である。彼等が歸つてきて奥地方面に日本の偉大さを話し日本頼むべしの觀念を植付けて呉れるやう祈つてゐる。

次に、全くの素人ながら自分の體驗から得た氣附きの點二、三を申述べると、第一は棉花收買の錯雜した仕組である。先づ農民からブローカーが實棉を買取り、これが手數料をはねて繰綿商に渡し更にブローカーを經て花店、貨棧と稱する仲買に渡り、も一つ棉花商を通り紡績業者の手に落ちる。かやうに四重五重の關所を潜らねばならぬので假に棉花の公定價格を引上げても大部分は中間で搾取されて農民は殆ど潤はぬ。それで農村に繰綿機や打包機を備へ付けてやり共同販賣組合を作つてこの厄介至極な慣習を打破する必要を痛感し私達もその一部を擔當したのでつあた。

或時私達は五千梱の棉花を支那馬車一千輛に積んで石家莊まで十三里の道を運搬したことがある。この馬車縱隊は延長にして六里半、時間にして五時間に亙つた。驢を御いて進む蜿蜒長蛇の馬車行進は眞に壯觀ではあつたが、途中の心配は並大抵でなかつた。一口に五千梱といふが金額にすれば四十萬圓になる。輸送保險制度を設けて商人の不安を一掃することゝ自動車や路線や鐵道など交通網の充實を計ることが奥地開發の前提條件だと今更乍ら痛感した。

また、この邊の棉花は粗毛と細毛が三對二の割合になつてゐて、種子が各種混合してゐたり、中には既に退化してゐるものも尠くない。品種を改良すれば、灌漑その他は現狀通りでも二、三割の增收は容易だと專門家は見てゐる。私達も優良種を多量買込み、道路の兩側五百米には高粱や玉蜀黍などの高稈作物を禁じてこれを播種させた。今秋の作柄を案じてゐたが幸ひ非常に好成績で、他地方が旱魃につぐ水災で四、五割の減收だといふのに、この地方は六割增は確實だといふ。北支全體から見て農民は毎年食料不足に苦んでゐる、如何に日本が棉花を欲するといつても、北支から小麥その他の穀類を驅逐するわけにはゆくまい。いきほひ品種を改良し灌漑等の便を開いて單位面積からの增收を目指さねばならぬことは素人にも判るのである。事變前支那側の各大學は競爭的に棉花の研究を行ひ技術指導員を農村に派遣したり、各省の棉產改進會も夫々試驗場を經營して品種改良や增產に努力した由である。これは我々が簡單に看過し得ぬ事實だと思ふ。支那の風俗慣習を知らなかつたため飛んでもない誤解を招き失敗を嘗めた例は、今度の宣撫工作に於ても無數にある。商習慣を辨へぬため商人がこちらの計算に乘つて來なかつたことを私も度々經驗した。ましてこの土地で大事業をやらうとするには、どうしても支那の自然と人を研究せねばならぬと考へるのである。

近く私達はこの地區を離れる。後には交替の部隊が來て私達の仕事を引繼いで呉れるだらう。北支人口の八割を占むる農民の救濟策、日本の必要とする棉花を北支に求めんがための綜合的增產計畫、かやうな大問題は我々には見當がつかない。たゞ、無經驗ながら實地に飛込んでやつてきた我々の體驗が、いくらかでも參考になり得れば幸である。

# 成吉思汗と蒙疆

白井道夫

一

日支事變は内蒙古の歷史を一變させてしまつた。新政權蒙古自治政府の誕生がそれである。新政府では親日防共、民生向上、民族協和、治安確立、金融圓滑、財政並に稅制確立、産業開發等のスローガンを揭げて、銳意その理想達成に努めてゐる。然しながら七百萬の人口を抱擁する廣袤六十萬平方キロの大地は鑛産、牧畜を除くほか産業的には頗る惠まれてゐない。氣象的に寒氣が甚しいのと土地の荒蕪とに基因する。それに土着の蒙古民族が僅かに三十萬に過ぎず、而も彼等は遊牧と喇嘛と長年月に亙る陋習とのために、農耕その他の生産的事業をやるにはあまりに懶惰無氣力すぎる。

それで現在この廣漠たる處女地を開拓するものは、蒙古民族でなく今のところ六百六十萬の漢民族である。全蒙古民族を糾合する時は外蒙古の五十四萬、滿洲の七十萬、青海、寧夏その他の百二三十萬等およそ三百萬の同族があり、中には多少文化的なものもないではないが、是等が一環をなして活躍するのはまだまだ遠い將來のことである。

新政府では、先づ内蒙古三十萬の蒙古民族の甦生策を講ずることになり、直ちに政務院直屬の牧業總局を創設して、蒙古民族に相應する皮革毛皮類の增産、家畜の增殖改良、取引の統制、牧野の改良等を圖るやうになつた。昨日までの遊牧の民を起ち上らせる秋が來たのである。たとへ政治的、經濟的な機構がいかに充實されやうとも、肝腎の住民が自覺し協力しなければ何の役にも立たない。民族の復興には民族自身の絶大な努力が必要である。斯かる時、思ひを新にして成吉思汗の偉業を尋ねて見たい。

二

一一六二年、オノン河畔の一遊牧部落に生れた一酋長の子鐵木眞、卽ち後の成吉思汗が僅か鐵鎧一個と馬九頭としか有たぬ一牧羊者から身を起し、無智蒙昧な遊牧民族を率ゐ、文化を誇る定住民族を征服した努力は絶大であり推服に値するものである。

成吉思汗時代の蒙古は、現代の蒙古とは到底比較にならぬほど、亂脈を極めてゐた。日本の群雄割據時代に等しく、タイチユート部、メルキ部、タタール部、ケレイ部、ナイマン部、カルルク部などの各遊牧部落が對峙して、常に血腥い爭鬪の絶へ間がなかつた。

吹き荒ぶ嵐の中に、敢然起上つた成吉思汗は、三十四歲の時に强敵タヂユート族を破り、更に五十歲にして全蒙を併呑するや、その翌々年推されて彼等の君主となり、玆に初めて成吉思汗と號することになつた。成吉思汗のジンは剛毅、ギスは禮讓、汗は大君の義である。これからの彼は益々幸運に惠まれ、滿洲シベリヤから一轉して天山の嶮を越え中央アジア、アフガニスタン、ペルシヤへ、更に轉じて支那、印度、ドニエブルへ、六十六歲を以てその生涯を終るまでの僅々十餘年の短時日に、彼の鐵蹄は優に數百萬キロの厖大な地域を蹂躪し盡したのである。

その從屬者を觀ても、汗卽位時代には僅かに一萬三千に過ぎなかつたのがペルシヤ遠征當時には麾下の蒙古騎兵だけでも一躍二十五萬から四十萬といはれ、更に彼に征服された民族數は七百二十種の多きに上つたといふ。何が彼をして斯くあらしめたか？　ローマは一日にして成らず。彼の未曾有の覇業達成の裏には、實に何人も追隨を許さぬ不退轉の意志と巖も徹す不斷の努力と非凡な才幹とが擧げられる。

卽ち僥倖にあらず武器にあらず、彼自身の力に依つて能く克ち得たものである。

三

彼の猛烈なる戰鬪意識、秋霜烈日の如き軍律、訓練ぶり、更に政治、經濟、法律、宗教、思想、文化、あらゆる方面に、彼の凡ならざる努力の跡が窺はれ、彼の有名な成吉思汗法『大禮撒法典』、教訓人物任用に關する『元史譯文

證補』、その言行錄とも稱す可き『成吉思汗實錄』『新征錄』等は今なほ味はふべきものとされてゐる。

先づ彼が遠征に臨まうとする時は麾下の各部隊の檢閱、武器の點檢等を嚴格にしたばかりでなく、征服地の士民に對する心得などを訓示する等現今の宣撫工作にも等しい細心の注意を拂つてゐた。且また彼は斷じて無名の師を起さず、やむなく對手國の攻擊に移らんとする時は、必ずその國の王者に簡潔ながら勸降の書を送る等、これまた現在の勸降狀にも較ぶべき戰略の周到さがあつた。

獨り部下の軍隊のみならず銃後を守る輜重の徒輩に至るまで、軍需品糧食等に關する長期戰的訓練を施してゐた事實に至つては敬服の外はないのである。それに警察制度や交通網の充實を圖り、論功行賞の公平を期し、その苟も我に勝れりと思惟されるものがあれば、これを悉く自家薬籠中のものとする手腕と雅量とは正に將に將たる器と稱すべきである。

支那ペルシヤの學者や技術家には政治的事情をはじめ加農砲や火藥の製法並に使用法等を、また回教徒には地理的事情や經濟的事情などを聽取して、その文明的研鑽の資に供することを怠らなかつた。支那山東省に在りし德望の士邱長春に治國の要諦を訊ね「愛民は治國の方なり」との箴言を得たことは有名な話である。他面、彼は人間教育、即ち人の問題に就ては特に深く意を用ゐた。今日なほ嘉言として、廣く膾炙されてゐる彼の遺訓を覗ても、ほぼ想像ができる。

一、朕が這般の民族を朕の政權の下に統一するや、朕が第一に心を留めしはその間に秩序と正義とを行はれしむるにありき。

一、最も嚴正なる服從の道を維持せずんば、その帝國は咄嗟の間に支離滅裂となり、忽ちにして衰頽の域に沈淪せん。

一、能く家を治むるものは卽ち能く國を治む。能く十人に長たるものは能く千人萬人に長たり。一令を出し一言を發するに、必ず三人然りと言ひて後行ふべし。

一、馬にして肥えたる時能く馳せ、瘦せたる時また馳せ肥瘦中を得たる時また馳するは良馬といふべし。

一、己を知るものにして始めて人を知る。

一、幼者長者と相見る。長者未だ問はざるに、幼者先づ發する勿れ。

一、民に臨むの道は乳牛の如し、敵に臨むの道は鷲鳥の如し。

一、一家の事內助に待つもの多し、その家を見てその人を知る。

一、酒を嗜むもの盲きこと聾の如く、瞽の如く心手主なく教業俱に廢す。酒の性を亂るは人の善惡を問はざるなり。

一、君酒を嗜まば君職を失ひ、百僚酒を嗜まば臣職を失ひ、將酒を嗜まば軍制弛み、兵酒を嗜まば事變生じ、常人酒を嗜まば家を傾け、僕酒を嗜まば責を受けん。

この十ケ條こそ、正しく成吉思汗を不世出の英雄たらしめ、世界制覇達成の根本の武器でもあり大信念でもあつた。つまり成吉思汗精神の眞髓であり、同時に起上る蒙古民族への最大の教訓でもあつたのである。

## 四

成吉思汗は蘇る。起ち上る蒙古の中心德王は、新蒙古建設に遺憾なくその力を發揮するであらう。斯かる秋、苟も蒙古民族たるものは、その一人々々が新蒙古建設の最も偉大なる細胞として、先づ喇嘛教への陶醉をかなぐり捨てると共に積年のあらゆる惡弊を、斷乎として一蹴し去らねばならない。

蒙古は蒙古人の手で。民族興隆の實現には、飽迄も强烈な自覺が必要である。そこから眞の蒙古魂は生れ、獨立國としての面目は發揮されてくるのであり、彼等自身の手に依つて建設される甦生蒙古の眞の姿こそ期待される。

# 北支の農村 5

みづの・かほる

## ◇移民と出稼

北支殊に河北山東の二省は、支那でも人口の密度の最も高い地帶で、これを近年まで人口が過剰だと言つて、つぶやいてゐた日本に比べて見ても、日本の一平方粁百七十三人に對して、河北省は二百四十六人、山東省は二百二十一人といふのだから、流石の日本も顏負けする位である。

然し、日本はなんと言つても瑞穗の[illegible]、五風十雨には惠まれてをり、その上農耕技術は進み、土地の生産力が豊かなので、よしんば人口の密度が高くても、食糧不足の心配は無く、又一方都市に於ける商工業のめざましい發展は、農村餘剩の勞働力を消化してくれるので、今日までは、農村から食ひはぐれ者も出さずにすんで來たが、滿洲事變後は、むしろ人間が足りなくて困つてゐるといふ状態である。

ところが、北支は、日本のそれに比べると、自然的條件が著しく劣る。雨量が少くて土地は痩せ、生産力は乏しく、それに雨量の分配が惡くて、旱魃と水災が毎年のやうに繰り返される。從つて、さうした地帶に行はれる農業に、改善進歩があらう筈なく、かくて農産國北支も名ばかり、平年に於てさへ、食糧を他から移入しなくてはならないといふみじめさである。

筆者は、一體かうした北支の土地に今日のやうな人口がよくも遠慮なく殖えたものだと、考へて見れば見るほど全く不思議でならない。なるほど歴史が古いからだと言へばそれまでだが、喰ふものが足りなくなるまで人間が殖えて行つてはたまつたものではない。それでも老獪英國のやうに、文句を言つて寢てゐても、賄つてくれる植民地でもあるといふのなら、又話は別であるが――。

北支の農民は、早婚で、無學で、强健である。この三拍子揃つた北支農民の繁殖力の旺盛さは、今更こゝに申すまでもないことである。だがその責を人間の農民に負はすのは苛酷である。むしろ造物主の誤算に訴へるべきだと思ふ。人口の過剰!! これこそ實に北支農村の宿命的な貧困、土地分配の過少より來る不可避的な貧困をもたらすものである。

北支の農家には子供が多い。どんな大凶作でも、たとへ一穗の高粱が採れないといふ歳でも、子供だけはおかまひなしに生れて來る。彼等は、家族の増員が、更に貧窮の度を深めるであらうことは百も承知しながら、生れ出づる惱みをどうすることも出來ない。子供が多くて困ると天を恨む位が關の山で、どうせはこれも天なり命なりと、あきらめるよりほかはないのである。

さて、話は少し飛ぶが、滿洲の建國とともに、日本は滿洲移民に躍起となつてゐる。あの零下何十度といふ酷寒の北滿に、雄々しくも開拓に苦鬪しつゝある同胞を思ふ時に、筆者は滿腔の感謝を捧げたい氣持ちがする。

さりながら、滿洲は從來、宛然漢民族の移民地であり、北支の農村にあふれた人間のはけばであつたのである。まこと過去一世紀間に於ける漢民族の滿洲への移民は、文字通り潮の寄せるが如き勢ひで流れ込んで行つた。かくて、今日滿洲三千餘萬の國民の大多數は、これ等の移民とその後裔とによつて占められ、滿洲の農業が彼等によつて開發されたことは、あまりにも周知

の事實である。

然らば、何故にこんな大げさな人間の移動が行はれたか。それにはもとより未開の沃野が、農耕に天賦の特技をもつ彼等を引きつけたといふことゝ、一方には天災と戰禍と人口の過剩とが彼等を追ひやつたには相違ないが、だからと言つて、北支の農民が好んで移住したとは、一概には考へられない。

そのかみの遠い歷史はしばらく措いて、少くとも今日の北支の農村は、前にも觸れたやうに、血族的の繋りをもつ集團部落が多く、この經濟的且つ精神的共同體は、春風秋雨山河とともに何百年といふ歲月を重ねて、現在に至つたものである。部落民は、この血族的雰圍氣に抱かれて、己が部落に生れ己が部落の土となることを念願としてゐる。彼等には、たとへ愛すべき國土は無いにしても、彼等には愛すべき鄕土があり、愛すべき部落をもつ。蓋し彼等の部落への愛着は、日本人が山紫水明の祖國、鄕土への愛着に較べて、決して優るとも、いさゝかも劣つてゐるものではないと、筆者は思ふ。

それに又、北支の農村は分頭相續が行はれ、男の子が何人ゐても、平等に親の財產が分配される。そこで日本のやうに長男が家を繼いで、次男三男は是が非でも生れ故鄕を飛び出して、生活の道を考へなくてはならないといふ心配が無い。而も支那では、昔から大家族主義で、出來ることなら分家しないで、子々孫々と三代でも五代でも、ごたごたと一家に住むのを良風美俗と心得て來た。そこにも農村靑年の、出鄕發展をいたくくじかす因緣をはらんでゐるのである。

かやうに北支の農民は、どう考へても、好んで故鄕を飛び出すやうな人間ではないのである。むしろ移住を好まない人間だとさへ、筆者はさう思ふのである。だが數十年來の滿洲への移住は、上述のやうな天災戰禍による飢餓に迫られ、好むも好まざるも止むに止まれざる移住であり、むしろ流民の移動であつたと筆者は思ふのである。

滿洲から北支に半生を送つた筆者は滿洲に於て、又、河北山東の現地に於ても、彼等の滿洲への移住悲話は、あまりにも多くを聞き多くを見て來た。出來ることなら石に嚙りついても、故鄕を捨てたくないといふのが彼等の僞らざる心情である。今日我が同胞が、國策のために、歡呼の聲に送られつゝ勇躍滿洲へ移住するのとは、凡そ似て非なるもので、彼等は泣きの淚で故山を捨てゝ行くあはれな農民達の姿であつたのである。

しかし何はともあれ、過去一世紀に於ける北支農民の滿洲への移住は、人口の過剩に喘ぐ北支農村の、こよなき調整であり、緩和であつたことは否めないし、又たとへそれが强ひられた移住であつたにせよ、その結果としてはこれ等の移住者は滿洲の廣袤千里の沃野に根を下ろして、漢民族の輝しい繁榮となつて現れた。

次に北支農村からの出稼には、山東河北兩省を中心とする農民の勞働出稼である所謂苦力と、山西省並に冀東地區や山東半島地方に於ける諸縣からの商業出稼とがある。その內でも北支農民の滿洲への勞働出稼は、こゝ十數年來のことで、最盛期には年百萬人を越え、南方支那の華僑とともに苦力の出稼は、支那の國際收入の源泉として大きな役割を演じてゐる。

北支でこれ等の出稼者が、滿洲から持ち歸る金は、事變前には、年額少きは二千萬圓と言ひ、多きは五千萬圓と言はれたものである。而もその上この百萬の人口が、北支の穀を喰はず北支の物を費はないのだから、これを計算に入れゝばもつと夥しい額にのぼる。この出稼收入が、北支の農村に潤ひをもたらし、滿洲ではこの偉大なる勞働力が、產業開發に寄與し、又しつゝあることは云ふまでもないことである。

出稼の內でも商業出稼は、都市のものも多いが、農村出身では比較的有產階級のものが多い。それといふのも文盲者や氣てんのきかないものでは、商賣が出來ないからでもあらう。商業出稼には、好んで滿洲へ渡るやうであるが、苦力出稼は、少くとも北支で喰へるといふ農民は決して行かない。貧乏で、北支ではどうしても食へないものか、嫌はれて部落に居たたまらないもの位が出て行くのである。從つて部落民は勞働出稼ではる〳〵滿洲へ渡つて行くものを、あまりよく言はない。

それに旅に出て行つたものは、外からとかく碌なことを覺えて來ない。況んや無學の彼等のことであるから、尙更手に負へない。淳良な部落の氣風を打ちこはして行くものは、かうした出稼歸りの若ものに多い。

そこで、出稼も亦移民と同樣、出來ることなら、嫌はれてまで、滿洲へ苦勞をしには行きたくないといふのが、彼等の心情なのである。細い烟でもいい、食へることなら家族と共に生れ故鄕で、己が部落に平和な日を送りたいことは、苦力だつて變りはないのである。

# 可園雜記

加藤新吉

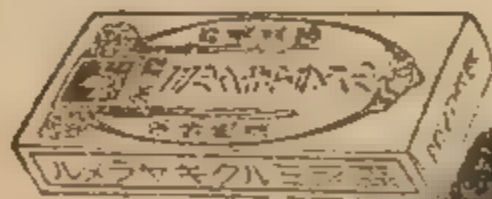
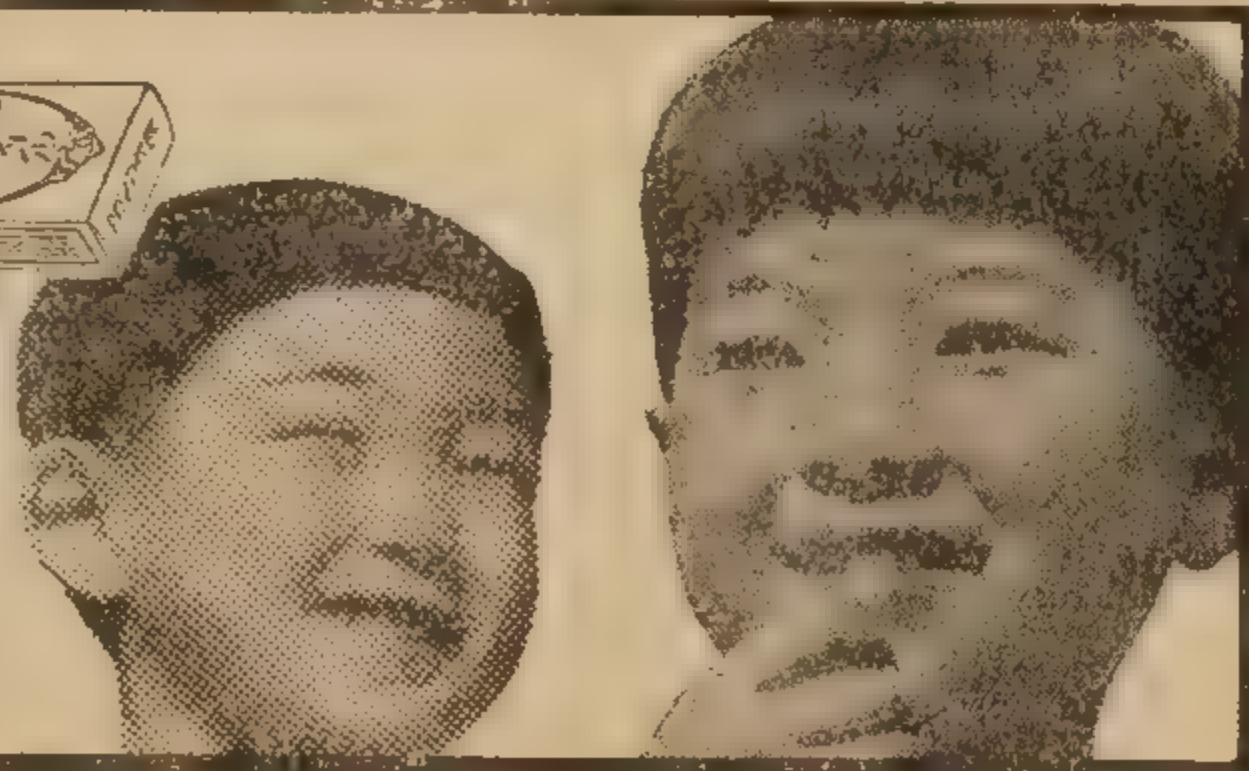
彼氏、これは私の敬愛する知人で日本の公人、某將軍、これは北京に住む舊支那生き殘りの勇將、この二人の交際は日もまだ淺いと思ふのに最近師弟の契を結んだといふ噂がある。初は兄弟の義を結ぶ筈であつたが年齢の相違が餘りに甚しいので師弟に改めたともいふ。老將軍にしてみれば小倅の癖に兄弟とは生意氣なと思つたかも知れないし、またそれを主張もしかねまじき人物である。が彼氏はそんな事に頓着しない濶達な人柄であり、老將軍と意氣投合したかは知らぬが之を師と仰ぐつもりも弟子の禮を執る意思も先づあらうとは思はれない。

噂の眞僞を私は保證はしない。たゞ友達甲斐に一應の忠告はしようと思つたが、それも或事情で果せなかつた。彼氏若し支那に於ける師弟關係を知らないか或は簡單に考へ過ぎてゐたとしたら困ることになるかも知れない。兩者の間によからぬ第三者が介在してゐる場合、特に公人として彼氏の立場は面白くないであらう。早い話、三尺退つて師の影を踏まぬ位はまだしも、對談に際して席につくことを許されず何彼の場合頭を床にすりつけることを要求されて、彼氏それに甘んじるかである。若し甘んじなければ老將軍はその無禮を怒るであらうし、怒るが當然と支那人はいふであらう。それが形を貴ぶ支那の師弟の禮だからである。

日本も昔は師弟の禮が行はれたと聞く。而かもその禮は形よりも心に重きを置くものであつたらう。近代、理窟や技術の切賣をするやうになつてから師師たらず弟弟たらず、禮もまた廢れた。勿論支那の古禮も廢れつゝある。併し今日の社會及家庭に於てはまだ古禮が相當にものを云つてゐる。彼等は人を評して學問がないといふ、學問がないとは概ね禮を辨へぬ謂であり、甚しく人を輕蔑した言葉である。

ある支那の夫人が自分の子供を長上に紹介し、子供に向つてこれは某伯父さまでいらつしやる、ちやんとお辭儀なさいと云つた爲に皆から輕蔑され忌避された最近の實例がある。子は父の友を親しんで伯父さまと呼び、縱令それが若い人の場合でも父と同列の人として敬意を拂ひ、同座しても席に着かぬ。それが禮である。父の先輩、謂はば祖父級の人を父の列まで下げて伯父さまと呼ばせ、その結果夫人自身は祖父の列に迄せり上ると云つた非禮は教養ある支那の家庭では決して許されない。長幼の序はそれ程まだやかましいのである。

これらのことは百年前の日本では極めて普通だつたであらう。古禮既に廢れて新禮未だ行はれざる時代に生れ合せた結果として我々聊か珍とする譯である。その我々が古禮なほ餘喘を保つ國に出かけるから問題にもなる譯である。是非の批判は暫く措いて、我々は尠くとも相手が形式的だけでも禮を尙ぶことを考慮してかゝる要があらう。兄弟師弟の誓をすることが必ずしも日支親善ではない。形式的な誓なんかしなければそれでも濟む。形式的な誓をするからはそれに伴ふ形式的な禮を行ふ用意が要る。若しその禮を失へば感情を害ひ輕蔑を招く。

德川幕府から北米合衆國に遣はされた使節はその禮儀の正しさを稱讃された。面倒な支那の古禮に通じること必ずしも能ではない。自ら持する所あることがより肝心である。

# 宦官の話

石橋丑雄

汝若し一身の榮達を希はゞ股間の一物を切り取つて異國の宮廷に奉仕せよ、富貴榮華意のまゝならん。

日本人を捉へてこんな事を冗談にでも話し掛けやうものなら、どんな我利我利亡者でもそれこそ弗然と色をなして怒鳴り返す所であらうが、流石に地大物博を以て聞ゆる大陸には、斯うした男性としての極度の苦痛と屈辱とに堪えつゝ、萬一の僥倖とでも謂ふべき富貴榮達を志願する輩が昔から澤山にあつた。此等が即ち宦官と稱せられる去勢の男子群であるが、實にかうした宦官の歴代に亙る存在は、所謂「金儲けの爲ならば何でもする」と云ふ氣分や萬に一の富貴を願ふと云ふ賭博的氣分の一面を物語ると共に、折あらば穴隙を切りて相見えんとする深閨の婦人心理、猜々疑々他人を信ずる能はざる民族心理等を表明するものではあるまいか。

宦官は元來宮刑に處せられた男子を以て之に充て、主として天子の後宮に使役して諸用を辨ぜしめたものであつた。此の宮刑と謂ふのは支那に古く行はれた五刑の一で、今で云へば即ち去勢や斷種の手術を公刑として科したもので、即ち死刑に次ぐ重刑であつた。其の始は帝舜の時と謂はれるが、之は尚書の舜典に舜が五刑を定めたことが見えて居る關係からであらう。其の後周の穆王の時に呂侯に命じて作らしめた呂刑と云ふ刑書に據ると、當時既に此の宮刑に屬する刑が三百あつたことや、其の贖罪には鍰六百鍰を要したことなどが周書に見えて居るけれども、私は寧ろ之を以て漢民族が西方から中原に侵入した時に、持つて來た風習から發したものと思ふ。尤も之に似た私刑は古くから各民族の間に存して居たものゝ様で、多くは姦罪に科するのを例とした。即ち姦夫姦婦の局部を損傷し又は之に點灸する等の方法であるが要は被害者の復讐心理から出たものと考へられる。此の姦婦に對する點灸の私刑は支那には現在も行はれる風俗であり、話は變るが公刑の笞刑・杖刑にしても、明時代からは婦人の罪人には單衣を着せて臀部を叩いたのに、姦婦だけは裸にして叩くのを例とした様である。

元來此の宮刑を如何なる罪人に科したものかは確然としないけれども、呂刑の註に、宮は淫刑也とある通り、本來姦罪に科したものであらうが、後には死刑の減刑としても執行したものゝ様である。然し上述の通り呂刑に宮刑の屬三百とあるのを見れば、其の罪目は相當多數に上つたものであらう。而して其の刑の執行の方法としては男子は其の陽勢を去るに在つたので、此の方法としては(一)睾丸のみを去る法、(二)陰莖のみを去る法、(三)此の兩者を去る法の三種があつたが、玆に問題になるのは女子の宮刑で從來種々の說の存する所である。即ち呂刑の註の如きも單に「女子は幽閉す」として居る所を見ると、たゞ人其の物を一室に幽閉したものか、又は手術に依つて局部を閉塞したものか判然しないけれども男子の宮刑に對しては局部閉塞の方法が相對的なものであると思ふ。日耕帖と云ふ本に

椓竅之法。用木槌擊婦人胸腹。即有一物。墜而掩閉其牝戶。止能溺便。而人道永廢矣。是幽閉之說也。

とあるのは面白いと思ふが椓竅は即ち女子の宮刑である。又男子の宮刑用として昔は特に溫室の設備があつて之を蠶室と稱したのであるが、此の名に就ては前漢書の張安世傳「下蠶室」の註に

師古曰。謂腐刑也。凡養蠶者。欲其溫而早成。故爲密室。蓄火以置之。而新腐刑。亦有中風之患。須入密室乃得以全。因呼爲蠶室耳。

とあるのが當つて居ると思ふ。此の腐刑は即ち宮刑の別名で、其の義は局部を腐去するに因ると云ひ、又其の手術に使用する藥を腐と云ふのに因るとも謂ふが、漢の司馬遷の撰に成る史記を腐史と稱するのも遷が李陵を辯護して武帝の怒りに觸れ遂に宮刑に處せられたのに因るのである。尙ほ史記の孝文帝本紀十三年の條の索引に

文帝除肉刑。而宮不易。張斐註云。以淫亂人族類。故不易之也。

とあるのを見ると當時宮刑の必要であつた所以も忖度出來る。

然し斯樣にして出來た宦官が後には多大の勢力を有する樣になつて、歷朝の宮中府中を左右し、遂には大臣の任免から百官の生殺與奪は素より、天子の廢立までも自由に其の手中に掌握する樣になつたのであるが、斯うなると到底刑餘の廢人では無くて立派な大官であり、從つて自ら陽を斷つても榮達を得ようとする宦官志願者が續出する樣になつた。宮刑は大體に於て東漢時代に廢止せられた樣であるが、爾後の宦官は大部分斯うした自宮者を以て之に任用したのである。

支那歷朝の史書を繙くと宦官の害毒は到る處に見受けられるが、其の最も甚しいのは兩漢・唐・明の如き漢民族の王朝で、外族殊に北方民族の王朝に尠いのは、東洋に於ける宦官の本據が漢民族の王朝にあつた關係からと思はれるが、殊に最近に於て其の慘害を蒙つたのは明朝で、其の歷史を識つて紫禁城裡を逍遙すると、曾て此等宦官の橫行した當時の有樣が眼前に描出されるのを覺える。卽ち今の故宮一帶は彼等得意の活躍舞臺で、明末に於ては其の數實に十萬と稱せられ、此等が一萬に近い宮女と相交錯して紫禁城の大奧を陰謀姦惡の大巢窟と化しつゝあつたのであるが、特に中路乾淸宮の一廓は其の中心とも稱すべきもので、天子と百官との間に介在した內奏事房や、天子の寢に御する宮女の事を取扱つた敬事房なども今尙ほ乾淸門內の西廊に殘つて居る。

淸朝は本來宦官を重用せぬ朔北民族であるのに加へ、世祖順治帝の遺詔が千古の鐵則となつて其の害禍を殆んど見なかつたけれども、其の末葉に西太后が出られるとかうした祖制も緩み勝ちとなつた。卽ち同治朝に安得海や光[illegible]朝に李蓮英の樣な權力者が出現したけれども、其の害毒は明朝などゝは到底比較にもならぬ程度のものであつたが、然し李蓮英の收賄した額は前後を通じて二億圓と傳へられる。北淸事變前の彼の私財は約四千萬兩であつたが西太后の蒙塵に從つて北京を出る時之を邸內に埋沒して行つた所を外國軍に發見されて全部沒收せられた爲、翌々春還つて來てからは其の埋め合せに更に辛辣な收賄を始め、爾後七年間に約三千萬兩を蓄へたと云ふ。萬壽山離宮に於ける彼の住居は西太后の便殿樂壽堂東北の一廓であつたが、其所には光緒皇帝の御物よりも一段と立派な調度が揃へられて居るかの觀がある。此の李蓮英こそは實に支那に於ける宦官史の最後を飾つた男で、明治四十三年に六十九歲で死亡した。

紫禁城には宣統帝の退位後も澤山の宦官が殘つて居たが、大正十二年六月二十六日夜の中正殿附近の近火が宦官の放火と云ふので、帝は宦官の大放逐を決行せられた。當時出宮した宦官は實に一千四百三十八人と稱せられたが此の大放逐はまた實に支那宦官史の大尾であつた。

現在北京にはまだ澤山の宦官が殘つて居るが、其の代表的なものは太廟の王德霖と景山の劉和才とであらう。王は河北省河間の產で七十六歲、十三歲で淨身（自宮）して十八歲の時入府し二十八歲の時西太后に命ぜられて太廟の首領太監となり正六品を頂戴した。民國以來部下の太監は皆逃亡したのに彼のみ一人留まつて苦節貧行三十年、いま尙その辮髮と共に淸朝に對する臣節を全うして居る。劉は六十六歲で生地は京南湖林村、幼時の淨身と云ふ。正七品頂戴の壽皇殿首領太監で小柄の愛嬌者、一見して宦官の特徵判然たる男である。此の外後門外の宏恩觀や舊王府にも斯うした人達を相當見受けるが、此等を北京人は太監・老公等の名で呼んで居る。

# 支那の馬

高須芳次郎

（一）北支の一名物

支那の歴史を見ると、伏羲の時に龍馬（翼ある神馬）が八卦を背負うて黄河の中から飛び出したといふ傳説があり、また帝堯の時代に、乘黄の馬が現はれた由を記されてゐる。それらによると、支那では、早くから馬が存在してゐたことがある。

從つて、繪畫や文學や傳説や俚諺・詞句などの上にも、馬のことが澤山出てゐる。一體、馬は北支の一名物ともいふべきで、「南船北馬」といふ言葉によつても、河川・湖澤に乏しい北支では、運搬に、耕耘に、旅行に、行軍に、馬が缺くべからざる存在であると同時に、北支の人々が能く馬に親しみまた巧みに馬を御する方法を心得てゐることが第一に頭に浮ぶ。

これに對して、南支は、湖川に富むので、おのづから船を交通機關の主要なものとして用ゐ、馬は自然次位に置かれてゐる事情の存することが分る。

支那馬の種類には、西路馬・東路馬の二種があつて、西路馬は、伊犁系で乘用馬車馬によく、東路馬は、純蒙古系で、乘馬として用ゐるによい。その多產地は、陝西・四川の二省及び東三省・山東・山西・甘肅・雲南各省の一部で、北京方面に供給される良馬は、庫倫の東方から海拉爾附近に亙つて產するもの、それから遙かに伊犁から塞外を越えてくるものなどである。

私は、馬について專門に研究してゐるのでないから、動物學から見た馬の種々相については、之を語ることを省き、文藝的に見た支那の馬について語る事とする。

（二）馬をめぐる傳説

支那傳説に現はれた馬については、往々、興味を覺えしめるものがある。文豪柳宗元（子厚）の『八駿圖を觀るの記』には、周の穆王が八駿馬に跨つて、諸方を周遊し、崑崙の大きい丘の上に登つたことを記してゐる。この八駿馬については、二つの傳説があつて『穆天子傳』には、

〇赤驥〇盜驪〇白義〇踰輪〇山子〇渠黃〇華騮〇綠耳

を八駿としてゐるが、『拾遺記』によると、さうでない。まるで異なつた名を擧げてゐる。それも其の筈だ。元來、八駿は、空想の上に描き出された逸物で、神馬にちかい。その圖を見た柳宗元が「甚だ怪なり」といつて、異形に目を見張つたのは當然である。

が、その龍鳳・麒麟の如き有樣をしたグロテスク味に、一種の面白さがあるともいへよう。

それから、秦の始皇は、萬里の長城の建築を見て廻るについて、彼の愛馬に乘つたといはれ七馬（七匹の駿馬）の名が傳へられてゐる。

唐の時代は、最も名馬が多かつたがそれは、その威名が遠く西域地方にまで聞いて、諸國から競つて、逸物を獻上した爲めだつた。それ故貞觀十驥の名さへ出來た位で、馬の繪も亦この頃一番傑出したものを出したのである。

當時、皇帝玄宗は、大きい馬を好んで、厩のうちに、四十萬頭を畜へたといはれる。そして玄宗は、第一流の畫人、韓幹に命じて、駿馬の姿をいろいろに寫生させたので、こゝに馬の名畫が續々現はれた。つまり馬の全盛時代が馬の美術の發展を促したのである。

（三）英雄・豪傑の急を救つた馬

それから傳説の中には、馬が英雄、豪傑を救つた話が少くない。東漢の主劉晃が戰爭に敗北したとき、駿馬に鞭つて危機を逃れ得たところから、その馬を自在將軍といつたさうである。また晉の司馬が敵兵のくるのを知らないで休息してゐると、側にゐた馬が急に食事をやめ、鞍の方を見て、頻りに嘶くので、「これは何かあるにちがひない」と氣付き、すぐ馬に騎して十里ばかり急走した。不圖、その際、あとを見ると、敵が追ひかけてくる姿を見たのである。が、馬の速力によつて、一命を失ふことを免れたので、揚武の名を馬に與へたといふ。

かうした傳説を見ると、馬は、愛すべき動物であるばかりでなく、知性にも優れたところがあつて、一層の親しみを感ずる。

從つて、俚諺、譬喩なども、いろいろ出てくるわけで「風馬牛相及ばず」といひ「駟も舌に及ばず」といひ「驥尾に附す」といひ「驥足を展ぶ」といひ、或は「馬耳東風」「驢耳西風」「馬到つて功成る」といつたやうな言葉が支那で一般に通用するやうになつたのも偶然でない。馬の生活が、いかに深く人間生活と結びついてゐるかを沁々、こゝに想はしめる。（完）

# 支那芝居雜觀 6

石原　巖徹

◇唱白（歌とせりふ）

芝居が始まつて、かけのつけから歌を唱ふのは「武家坡」といふ劇ぐらゐのもので、大部分は先づ人物が登場してから、引子と[illegible]するせりふから始める。

引子は支那の大衆小說（古來のもの）の冒頭に書いてある詩の如きもので、修飾的な文句ではあるが、必ず何等かその劇中人物の行跡に關係のあることを述べてある。これには對聯の文句の如く對句になつたのや、七言絕句の詩になつたものなどがあり、音樂の伴奏は無いが、場合によつて文句の終りの方にフシをつける。このフシをつけるので最もハデなのは、三國志物の名劇「空城計」（或は「斬馬稷」と稱する場合がある）で、諸葛孔明が登場して演る引子「羽扇綸巾、四輪車快似風雲……」の一節である。引子が終ると「通名」と云うて、當人（劇中人物）の氏素性を名乘る。日本の謠曲と此の處似てゐる――恐らく謠曲の構成は支那に學んだものであらう。「通名」のしかたには「性は何、名は何、字は何、何處の生れ」と詳しく述べるのと、簡單に「我は何某と申す者なり」とやる場合とある。

「通名」が濟むと「定場白」と云うて、その劇の前說明の如き文句を述べる。

これも謠曲で「我いまだ都を見ず候ほどに、この度思ひ立ち京に上らばやと存じ候」などゝ云ふのに當るが、支那劇ではもつと具體的に事の次第を述べる。これは無論獨白であつて、觀客に對してその劇の內容を說明するやうな意味がある。

それが終つて、いよいよ劇は本筋に入つて行く。

せりふから歌へ續く場合には、せりふの最後の文句を一ときは高聲に述べ最後の一字を長く引張つて誦ふ。これを「叫板」と稱し、囃子方に向つて伴奏用意の合圖をするためである。この邊が支那劇獨特のやりかたで、怒つたのでも、特に感情が高潮したのでもないのに、急に高い調子に變化する所が奇異に感じられる。尤もせりふから歌に移る場合は大抵何等かの感觸を表現することになつてゐるから、必ずしもこの「叫板」はそれほど不自然には感じられない。

北京劇即ち皮黃劇の歌曲は、二黃と西皮との二種があり、この二種に各々原板、慢板、快板の別がある。又二黃には、反調、二六板、四平調等の變つた調子がある。これらの調子の大體の用法を述べると次の如くになる。

二黃……莊重或は悲痛を現す場合
反調……悲痛の極を現す場合
西皮……得意、快樂或は普通の場合
四平調……遊戲的な意味の場合
二六板……得意、或は見せびらかすやうな意味の場合
原板（西皮二黃共に）……特に大した感觸の無い場合
慢板（同右）……深思長嘆する場合
快板（同右）……感情の激した場合

發聲法は老生武生老旦は普通の聲、花臉は豪壯な作り聲、旦角（女形）は裏聲、小生は普通の聲と裏聲とを混用する。發音（口音）は芝居獨特のもので中州音（中州は河南省）と稱される。但し丑角（道化役）及び花臉中の或者（二花臉又は副淨と稱す）はせりふの場合北京官話を用ひる。せりふを云ふ場合に片手を擧げて袖で相手の人物に顏を見られないやうにして觀客の方に向つて云ふのは心中で思ふといふ意味で、實際には口に出さないことである。これも支那劇獨特のやりかたである。

# 東安市場安直珍味

黄子明

## 燉牛肉

東安市場の東來順といへば、ヂンギスカンー烤羊肉ーや、羊肉鍋子ー涮羊肉ーの旨い家として、これを目的に喰べにゆく日本人が頗る多いが、この家に燉肉といふとても安價でそしてめツぽう美味しい料理のあることを御存知の方が存外尠い。

燉とは、柔かく煮ることで、燉羊肉は羊肉、燉牛肉ならば牛肉を、舌の上でとろけるやうに煮たお料理である。ここでは燉牛肉を御紹介するが、實はさういふものゝ、なにも決して鞍下霜フリのやうな上等ロースを使つたものではなく、むしろ鋤焼などには全然不合格の筋ばつた硬肉を用ゐ、事實上燉牛肉といふものは、かういつた筋肉の多いゴツゴツした肉ほど却て美味しいし、また脂肪肉は殊に旨く、硬くて喰べられない肉が、かうも美味しい料理になるものかと、誰もが驚き且つ感嘆の聲をあげる。

二毛錢（二十錢）の小碗をとつても肉はたつぷりあり、これで御飯を三杯ぐらゐ喰べるには蓋し頃合の量で、簡單安直にお午をすませようとするには持つて來いだ。眼神經だけ嬉しがらせるそんじよそこらのいゝ加減なランチやビフなんぞよりも、どれほど實質的に胃の腑を感激させるか知れない。

この燉牛肉を喰べるとき、少し臭いが、蒜を鼠のやうにちよいちよいかじりながらやると、肉の味ひが奇妙に一段と旨くなる。

美味滋養安直料理の最なるものゝ一つといひ得よう。

## 炸羊尾

炸羊尾なんていふと、何か羊のシツポでも材料にしたイカモノ料理ぢやないかと思はれるかも知れないが、それは大間違ひ。脂肪の倉といつてもいゝ羊の尾になぞらへただけで、實は甜菜なのだ。

小豆餡のもあり、莞豆餡もあれば又しやれた棗餡もあり、それらの餡を包んだお饅頭を油で揚げたものゝやうに見えるが、實はメリケン粉は絶對に用ゐず、全部たゞ鶏卵ばかり使つたもので、その揚げ方の輕さ、黄い色の美しさ、眞に料理藝術の妙品といふべく若し夫れその旨さに至つては、甘黨は恐らく最高の讃辭を奉るに違ひない。お祖母ちやんも、お母ちやんも、お子供衆も、大悦び受合疑なしである。

この炸羊尾は東來順の拿手菜で、一皿五毛六分（五十六錢）、量がなかなか多いので四五人づれの時これをとるといゝ。

## 甜醬菜

東京のベツタラ、京の蕪の千枚漬、大阪のアチヤラ漬、日本の淺漬物は實に風味ゆたかなものだが、さて北京の味噌漬も、是れまた特殊の味ひに富んでゐる。

北京の醬菜には、甘口の甜醬菜と辛口の鹹醬菜の二通りあり、その有名な店としては、東安市場の北門、つまり金魚胡同の方の向側の天義順と、西長安街の天源とが甜醬菜の兩横綱で、日本人には相當お馴染みの前門外の六必居は鹹醬菜の有名な老舗である。

辛きも甘きも人の好きずきだが、風味のよさは、何んといつても甜醬菜に止めをさす。尤も六必居あたりの鹹醬菜は、僅か半年餘りの新味噌で出來るが、甜醬菜の方は、いゝものになるとどうしてもその味噌を拵へあげるだけでも三年はかゝるので、甘・辛の味は異なるものゝ、その有つ風味といふものゝ違ひがこゝから起る。

日本流のあつさりとお茶漬のとき、或は鋤焼などのあとの御飯、若しくは濃厚な支那料理をお腹に詰込んだあとのお粥のとき、この甜醬菜の美味しさはまた格別である。

綠の色つやつやしい胡瓜、かみしめた味のなんともいへぬ大根はいふまでもなく、豆瓢簞そつくりの甘螺は珍味といつてもいゝし、殊に秋の小茄子の醬菜ときたら、いつまでも含んでゐたいやうな美味で、また蓮根を入れたり杏仁や瓜子兒や落花生まで漬けた八寶菜は、おみやとしても北京名物の名を辱しめないものであらう。

## 冬菜肉

上述東來順の燉肉と對立する豚料理の珍味に、潤明樓の冬菜肉がある。

皮つき三段肉の一塊を、川冬菜で煮あげたもので、お豆腐よりも柔かく川冬菜の香がすつかりしみ込んで、その風味は何んに喩へやうもない。殊に

皮とそれについた厚い脂肪のトロトロととろける美味は堪らない。

豚の皮といふと氣味惡く思はれるだらうが、東京に長崎料理として名高い築地の簀屋の名物料理角煮も、皮つきの豚肉料理で、食通間に賞美されてゐるが、潤明樓のこの多菜肉の方が、味ひは一歩も二歩も上である。

## 捧身粥

俊山館といつたところで、恐らく誰方も御存知あるまい。東來順の横、吉祥劇場の南隣に、おつそろしく汚いそしてちつぽけな料理屋がある、それだ。

こんな汚い小店だが、こゝの捧身粥といふお粥を啜りながら、鍋貼—滿洲の日本人たちは燒饅頭といつてゐる—を喰べることは、少くも東安市場の食通といひ得るほどに、名代のものである。

捧身粥は、見ると實に美しい黄金色をした粟粥のやうだが、實は老玉米、それもその殼皮だけで拵へたもので、廢物に等しいものを材料としたものではあるけれども、そのサラリとした何の特殊の味もないやうなうちに、微かな清香を含む淡雅な風味は、通人でなければ味はれぬ悦びであらう。

この家の鍋貼も、本格的な拵へ方で他の店のいはゆる鍋貼とは味が異つてゐる。

捧身粥が一碗三錢、それをスープ代りに啜りながら、三鮮鍋貼を十五もつて喰べればお午にはちやうどいゝ。三十錢も奮發すれば結構。

## 酪

日本の洋畫壇に異彩を謳はれてゐる春陽會の伊藤慶之助畫伯と武齋のインテリ青年掌櫃武田正次さんは、本誌六號で紹介した北京の夏の飲物酸梅湯の記事をみて、一度これを味つたのが病みつきとなり、この夏、毎日のやうに遠い琉璃廠の信遠齋にわざわざ車を飛ばせては酸梅湯を飲み、北京ツ子も顏まけの酸梅黨になつちまつた。フランスとスペインに幾年もゐて、ハイカラなあらゆる飲物を味ひ盡した伊藤さんだ。よつぽど御意に召したと見える。

この酪に就いてもこんなことがあつた。十餘年も前のこと、栗原誠といふ洋畫家が北京にゐた。變物で、冬の或る夜、東興樓で晩飯をすませてから私は氏を東安市場の豐盛公に案內して酪を喰べたところ、これがまた病みつきとなつて、栗原さんは毎日晩飯のあと必らず東京市場に足を運んでは酪をやらないと承知が出來ないやうな大變な酪ファンになり、日本から友人でも來ると、先づ以て酪を御馳走する習はしになつちまつたことである。

酪とは、牛乳に酵素を働かせ、これをアイスボツクスで冷して、絹ごし豆腐ぐらゐの柔かさに凝結させた本當の乳酸飲料で酸と甘みとそして牛乳の有つ本來の味ひとが巧みに錯雜した極めて近代的な風味に富み、初戀の味はカルピスよりもこの酪の方が濃い。

カルピスといへば、その三島專務は在京時代、しきりにこの酪を研究し、變てそれが醍醐味となつて事業化され更に一轉して今の瓶詰カルピスに進み遂に大成されたものだと聞き及んでゐるが、さういへばカルピスも乳酸飲料でこの酪とは同巧異曲品であるやうに思ふ。

氷で冷却したものだけに、夏の飲料とすべきだが、酪の旨さは、むしろ寒い冬により多く味へる。ヂンギスカンで骨の髓まで温まつた時や、御酒で身體中がほてつたあとの酪の一杯の味ひは忘れ難い。

この酪の店豐盛公は、今尙ほ東安市場にある。店は甚だ以てむさくるしいがその酪は名代だけあつて流石に旨い。

しまた此家の牛乳で拵へた乳酸菓子の奶子捲も珍中の珍味である。

## 偉大な建業は交通から

古來偉大なる建業は交通の整備と相俟つて遂げられた。道はローマに通ずとは古のローマ帝國の盛大を物語る同意異語である。新東亞建設に邁進する臨時政府建設總署も、亦道路網の整備を重要視し、かねて愼重考究中であつたが、いよ〳〵昭和十五年度から五ヶ年繼續事業として幹線道路應急補修計畫を樹立した。總經費一億三千三百五十萬圓。北支三省河北、山東、山西のほか、江蘇、河南兩省の一部に亙り五十九路線、總延長粁程一萬一千六百十六粁の幹線路を逐次補强するのである。主として舊道路を利用するが、幅員は平原部において六米、山間部は四米半を標準に、路面中央部三米を砂利敷きとし、數瓲積みの貨物自動車の通過を標準の築造建設、「公路あるところ匪影なし」の愛路工作の徹底と相俟つて、北支に於ける産業、文化開發は公路の大發展に伴ひ期して待つ可きものありと云へよう。

## 北支那開發三箇年計畫

北支那經濟開發に就ては既に北支那開發會社の下に幾多の子會社の設立を見、又同社事業以外の一般産業も着々復舊整理されつゝあるが臨時政府當局は日本中央當局と協議の結果昭和十六年末を目標とする計畫經濟達成のため山西以東黄河以北の地域を劃して所謂三箇年計畫を樹立其の遂行に邁進する事となつた。この計畫は曩に北支那經濟四ヶ年計畫として既に一昨年末日、滿、支經濟提携の觀點から現地に確立を見たが、當時尙治安その他の關係から諸種の産業は復舊整備に追はれ開發迄に進展を見なかつた。其の後興亞院、開發會社等も續々設立され、各種産業も開發軌道に乘出したので愈々既成の事績を基礎として綜合的開發に全面的スタートを切ることゝなつた譯である。右に依る昭和十六年度末までの重要産業增加目標概數は次の如くである。

鐵道 四、七〇〇キロ（現在一、六五九キロ）
港灣 二、五〇〇萬キロ
鐵鋼 三〇〇萬瓲（現在二三〇萬瓲）
銑鐵 一〇〇萬瓲
鋼材 五〇萬瓲
石炭 三、四九〇萬瓲（現在二、三九〇萬瓲）
石炭液化 三〇萬キロ粒
鹽 二一〇萬瓲
棉花 五〇萬擔
羊毛 五〇萬瓲

## 大陸は人材を求む

鐵道路線の伸長、自動車網の擴張、水運の補強と北支蒙疆の全交通の綜合的運營に當つてゐる華北交通會社では、事業の飛躍的發展に伴つて從事員の業務量は日とともに增大する一方、同社人事課では鐵道省に對して人材の割愛方を七月以來要請中であつたが二千三百名の讓渡を決定、新社員は九月から十月中旬にかけて赴任することゝなつた。尙、華北交通はさきに內地で詮衡を終へた內地諸學校卒業生中、中等級から五百名、專門大學級から百名の技術系統を主として採用豫約をなすことゝなつた。一方會社自身も、人材の自家養成主義を採り、大陸開發の第一線に立つ社員の質的量的充實に努力する計畫である。

## 民路合作の成果！

最近北支、蒙疆鐵道沿線地帶の鐵道愛護工作は着々と實績を擧げてゐる。內地に住む人々には「民路合作」とか「愛路工作」といふやうな言葉はピンと來ないに相違ない。ところが「一面戰爭、一面建設」のこの大陸では、多數の警務從事員と巨額の警備費を以て全域の交通保全に想像も及ばぬ苦心がある。しかも延長粁程七千余粁を、限られた警務從事員のみを以て守ることは困難だ。沿線中國住民の提携協力こそ匪禍から鐵路を守るものだ。そこで現在北支、蒙疆では鐵道路線の兩側各十粁の地帶にある村落を洩れなく鐵道愛護村に組織し民路合作の實を擧げてゐる。愛護村の總數は現在八千村、千五百萬人に及ぶ。從來、鐵道愛護工作は主として軍の手で實施され華北交通會社がこれに協力して來たが、九月一日から全面的に華北交通會社にバトンが渡され、軍は今後指導監督に當ることゝなつた。これ等愛護村民の活躍は過去に於て列車事故未然防止、通信機關の保持等に表はれ、また軍警への協力、愛路奉仕、匪賊の撃退、逮捕又は報告連絡等に盡したことは實に夥しい數に上つてゐる。力強い沿線村民のこの協力に對して、華北交通では愛路慰安列車を運行したり、優良種子や食料品の配給を行ふなど、溫き手を差しのべてゐる。

## 雨降つて地かたまる

諺に禍を轉じて福となすと云はれるが、今夏の北支未曾有の水害に當つて幾多の實例が示されてゐる。「民路合作」の後を受けて例を愛路工作の上に拾はう。七月初め京漢沿線の出水から華北交通會社愛路課は總動員で罹災愛護村民救濟に乘上し、對策

を急賑、工賑、農賑の三方法に分けた。先づ急賑工作としては、避難民を安全地帶に收容、粥、麺、マツチ、其他を給與し、災民の防疫に萬全を盡した。次で工賑工作としては村民を水害復舊の路線工事に使傭して現金、現物を與へ、その使役給付人員は延人員四十五萬に達し、また職を失つた村民を滿洲に轉業斡旋したもの約千家族に上つてゐる。農賑工作では京漢、京包兩沿線村民に蕎麥種子八十五萬瓩、京山、津浦、京漢各沿線村民に小麥種子五十萬瓩、更に野菜種子など總て無料配給した。「灘水拉」(洪水來る！)と聞いて、村民の中には「日本人が黄河の王八(龜)に彈を喰はせたからだ」と白い眼をむくものもあつたが、水も引き食を與へられ職を保護された村民は、難に當つて今こそ日支提携の實を知り、「以民護路」の風潮は人から人、村から村へと押し擴められつゝある。

## 徐州の新市街建設譜

徐州は天津から六百七十余粁、津浦、隴海兩幹線の交叉するところ、昨年春の大會戰によつて有名だ。その大會戰は彼のタンネンベルヒの大包圍殲滅戰以上の勝利と唱はれ、大會戰に取材した火野葦平氏の『麥と兵隊』は日本の讀書界に未曾有の歡迎を受けた。今やこの皇軍將士の血と汗のにぢむ黄土の上に興亞の新建設が着着進められてゐる。在留邦人數も既に三千を越えたが、將來の發展を豫定しての大都市計畫も人口五十萬を目安に着手にかゝつた。既に第一期事業たる現市街を十字に貫く三十間幅並に二十二間幅の大幹線道路工事は進捗中で、戰禍の慘を物語る崩れた土壁、廢屋は道幅だけにどんどん取除かれ、土を運ぶ苦力の掛聲も興亞の息吹を傳へてゐる。市街は現在の都市城を中心に約十粁に擴大、施行區域中市街地區はそれぞれ四粁五十平方の商業地域、住宅地域、混合地域、工業地域の四地域を設定、道路は第一期工事に引き續き第二第三期に分けて擴張舖裝し從來の支那式道路を根本から改める。停車場も津浦、隴海兩線を統一し現在の東站を旅客中央驛とし、北站を貨物專用驛として輸送、交通の整備を期することゝなつた。十年を待たずして嘗ての人口五萬の商業都市を想起することは困難とならう。

## 蒙古人の人口增加は？

蒙疆地域の開發發展は當然に中央政權の强化を必要とし、過ぐる九月一日、從來の蒙疆聯合委員會は蒙古聯合自治政府と改められ、蒙古人のための蒙古を目ざし名實共にその整備が進められた。蒙疆の人口七百萬そのうち蒙古人は僅か三十萬、他は殆どすべて漢民族である。そこで「蒙古人のための蒙古」と云ふからには、その繁榮のために蒙古人の增加率が緊要な課題となる。增加率は、日本の例も歐米の例も、都會より田舍が多いが、蒙古は一般に率が惡く、而も奥地に行く程低下する。その原因調査に當つた察南醫院の坂口産婦人科醫長は、食物の改良と育兒法の改善とともに原始そのまゝのお産が改められることが肝要であると語つてゐる。氏の調査によると姙娠回數の半數以上は流早産する。(日本、滿洲は姙婦の二―五%前後)それは氣候風土よりも飲料水中の鹽分の含有量(一―二%)多量なること、分娩間際まで平氣で乘馬することと及びこの外の運動過度が大きな原因となつてゐる。分娩後の處置も不完全で續發性不姙に陷る者も多い。分娩時足から出る場合、手から出る場合など喇嘛醫の來診を乞ふが、すべて原始的な手當てゞひどいのになると出生しかゝつた胎兒の腐敗し柔軟になるのを待つこともある。また産褥熱の場合はたゞ胃腸藥を與へて母體の死期を待つといふ例もある。その他いろいろ想像も及ばぬ不衞生な處置がとられ、母體の死亡率も甚だ高い。蒙古民族發展のために、その衞生教化の緊急なることは、この一例を以てもよく判る。

## 頭に人の名をつけた料理

北京の支那料理館で菜單(メニュー)を手にとると、「馬先生湯」(湯はスープの意)とか「王先生菜」(菜は料理)とか、人の姓を冠した料理やスープに屢々ぶつかる。料理館の常連になつてボーイやコツクに顔なじみになると思ひつきの「美味い料理」を考へ出して、尤もらしく傳授する。まぐれにでも「これはうまい」となると、途端にその考案者の名をのせて「馬先生湯」とか「陳先生鷄肉」とかとなる。珍を求めて喰つて見て案外他愛もないものが多い。從來の料理に唐辛子を入れただけのものとか、スープに香料を添へただけのものとかで、「美味くもねえやア」と憤慨することもあるやうだ。だがしかし、名をうやうやしくつけてくれるところは流石北京、それがまた流行するから面白い。そのうちに日本人の顔なじみが「西園寺大人湯」とか「近衞先生麺」を考へ出すやうになり、メニューの上に日支親善を賑はすことにならぬものでもあるまい。

# 北京ごよみ 十一月

十一日（舊十月一日）
▽江南城隍廟開廟・外五區南横街にあり、開廟一日。遊人雲集する、前門外の女郎達もお詣り旁々遊びに行く。（こゝのお盆の燒法船は有名）

☆　☆

〔雜　事〕
▽送寒衣・十一日（舊十月一日）は孟多である。この日は鬼節と云つて民家では祭壇を設けて祖先を祀り、送寒衣と云ふ行事をする。これは段段寒くなるので亡者にも多衣を送ると云ふ古來の習俗で、いかにもゆかしい。寒衣は五色の色紙で細工したもの、長さ一尺ばかり、男女の服を作る。それに、亡者の名前、年月日など書いたのを添へ、夕方禮拜の後門外で焚くか、墓掃除に行つてそこで焚くのである。この焚くと云ふのは何かにつけて、天上界とか幽冥界に送る時などに行ふ。寒衣は昔は手製でやつたらうが、此頃は市中の紙店で賣つてゐる。尙新喪の亡者には白紙の寒衣を送る。新鬼は（亡者のことを鬼と云ふ）色物を着ないと謂ふのである。

寒衣を焚く前に紙錢を少し焚く。これを打發外祟と謂つて、他家の孤魂怨鬼に小遣錢をやつておいて無事に寒衣を送ると云ふ、他愛ない事のやうでやはり支那らしい事だ。

▽下元節・二十五日（舊曆十月十五日）正月の十五日は上元、七月十五日は中元、この日は即ち下元である。各寺院菴觀ではこの日から翌年正月二十五日まで百日間讀經するのが例である。いはゆる百日功德の道場だ。

▽九進十連環・安定門外北方十支里の仰山窪に淸朝滿洲八旗の練兵場があつて、昔は十月十五日になると演習（九進十連環）をやつた。それは美々しく壯觀であつたらしい。大寒の頃で凍死者を出すこともあり弱蟲は見物に行けなかつたとある。（燕京歲時記）

▽調鷹鬪雞・この月昔は鷹や軍鷄の訓練をやつて賭博に供したと謂ふけれど今は廢れてゐる。但し鷹のとれる時節で今も街頭に賣りに出る。內臣貪婪成俗とあるから隨分流行したと見える。

▽秋蟲・夏分から續いて少年子弟閑人の間で秋蟲を飼ふことが盛んである。多中養ふやうな好事者も多い。

▽玩具・舊十月になるとそろそろ凧を賣出す。街頭あちこちの、商店の店先や軒下などの空地を借りて、色とりどりの鮮麗な凧をかけ並べる。その圖案や色彩、形、細工のさまざまなこと、さすがに北京らしく豪華なものが多い。

又走馬燈の隨分凝つたものを賣る。

▽食物・栗は秋口から引續き賣つてゐる。街頭の店先で大鍋を持出して景氣よく熱砂をかき廻す。やはり秋口から出るのに糖葫蘆がある。これは葡萄や山芋、海棠の實など竹串でさして、氷砂糖を溶かした衣をきせたもの。果物の串團子のやうなものでなかなか美味い。

山芋、馬鈴薯など食膳に上る。鷄の蒸燒、家鴨の丸燒、蟹の糟漬など市場に出る。

又酒が美味くなる時節。北京の酒は種類の多と美味を以てまだ古來王城の面目を殘してゐる。

▽煤濤・北京の家は炕（オンドル）を設けたのと、一般には煤球兒爐子（支那式のタドンを焚くストーブ）を焚くのが多い。舊の十月にもなると日頃炊事用にしてゐる煤球兒を採煖用に使ひ出す。これはよく毒氣を發散するので瓦斯中毒で死んだと云ふやうな新聞の三面記事が出る。

▽花事・日頃玩賞してゐた柘榴など皆窖に藏ひ始める。

▽多賑・寒氣が迫つて來ると、多賑と云つて貧民浮浪者のための慈善事業が始まる。お寺などでは施粥をする。

昭和十四年十月十五日印刷納本
昭和十四年十一月一日發行

十一月號
（毎月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番　一四一五番
電話九段(33)二三四四番

一册定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

廣告取扱
一手取扱所　大阪市西區京町堀上通一丁目二五　一新社
電話土佐堀九三九

# 感冒・頭痛・頭重に

## 藥物相乘作用を活用した唯一の頭痛藥

# ソボリン

**藥物學上作用點の異る藥品を同時に與へると、その効力が非常に强化されて現はれる**……この最新の藥理たる藥物相乘作用を應用し、該作用を營ひボンピリン並にアミノピリンとバルビタールとの分子結合體を主効分として製したものが**ソボリン**で、少量(一回二錠)で効き目が早く、確かな點、從來の頭痛藥の追從を遠く許しません。

**痛みと熱に作用は安全**　**ソボリン**には鎭痛鎭靜作用と同時に極めて安全な解熱作用がありますから感冒等で頭痛と發熱を伴ふ場合に用ひて大變重寶です。しかも從來の頭痛藥の樣な胃腸・心臟を害する惧れがありませんから、神經質な人や御婦人、老人、お子樣方にも安心して服用できるのが**ソボリン**の特長です。

〔藥價〕

一回二錠・一日二回服用

| | |
|---|---|
| 四錠 | 三〇錢 |
| 八錠 | 五〇錢 |
| 二〇錠 | 一圓 |
| 五〇錠 | 二圓 |
| 一〇〇錠 | 三圓五〇 |

〔主治効能〕

頭痛、感冒、頭重、眩暈、齒痛、耳痛扁桃腺炎の疼痛、神經痛、ロイマチス痛、肩凝症、月經痛、腰痛、神經衰弱、ヒステリー、宿醉、船車暈、結核性の微熱に

SOVOLIN
100錠
»Takeda«
ソボリン"タケダ"
株式會社 武田長兵衛商店

製造發賣元　大阪市道修町　株式會社　武田長兵衛商店

定價三十錢

昭和十[illegible]年七月[illegible]日[illegible]　第六號